

地すべり・津波統合シミュレーション LS-Tsunami 説明書

目次

1. はじめに	2
1-1. 本ソフトウェアについて	2
1-2. 動作環境	2
1-3. インストール方法	3
1-4. 起動方法	5
2. このプログラムでできること	6
3. 地すべり+津波シミュレーション	7
3-1. シミュレーションまでの流れ	7
3-2. 計算領域の設定	8
3-3. 地形条件の入力	9
3-4. 地すべり計算結果の読み込み	10
3-5. 計算条件の設定	15
3-6. 計算出力の設定	17
3-7. シミュレーションの開始	19
3-8. シミュレーションの結果表示	20
4. 津波シミュレーション	21
4-1. シミュレーションまでの流れ	21
4-2. 計算領域の設定	22
4-3. 地形条件の入力	23
4-4. 計算条件の設定	24
4-5. 計算出力の設定	27
4-6. シミュレーションの開始	29
4-7. シミュレーションの結果表示	30
5. 基礎となる論文	31

1. はじめに

ここでは、「地すべり津波統合シミュレーション LS-Tsunami」について(以下 LS-Tsunami と記述)の操作方法を記述します。この内容に沿って進めていけば、シミュレーション計算を行うことができます。

なお、「地すべり発生運動統合シミュレーション LS-RAPID」と共通の操作については、LS-RAPID の説明書に記述しましたので、あわせてご参照下さい。

1-1. 本ソフトウェアについて

本ソフトウェアは特定非営利活動法人 国際斜面災害研究機構・佐々恭二および東北学院大学・柳澤英明が監修した「地すべり運動シミュレーション LS-RAPID」と「津波シミュレーション」の連動を可能とした Windows 用ソフトウェアです。ビジュアルインターフェイスを用い、計算結果を3次元でグラフィカルに表現することで、初めてお使いになる場合でも簡単に使えるように作成されています。

1-2. 動作環境

本ソフトウェアを使用するために必要な動作環境は次のとおりです。

・基本ソフトウェア(OS)	Windows 7, Windows 8, Windows10
・コンピュータ本体	上記 OS が動作する機種 (Core2Duo 等マルチコア CPU 搭載が必須)
・メモリ	2GB 以上を推奨
・ハードディスク	1GB 以上の空き容量
・ドライブ	CD-ROM ドライブ (アプリケーションのセットアップに必要です)
・ディスプレイ	1280×800 ピクセル以上の解像度
・マウス	ホイール付きマウス
・グラフィック環境	nVIDIA 製(GeForce シリーズ) または ATI Technologies 製(RADEON シリーズ) のグラフィックチップ ※上記以外のグラフィック環境では正常に表示されない場合があります。
・ソフトウェア	地すべり運動シミュレーション LS-RAPID Version2.1.2 以上

■ グラフィック環境による表示上の問題について

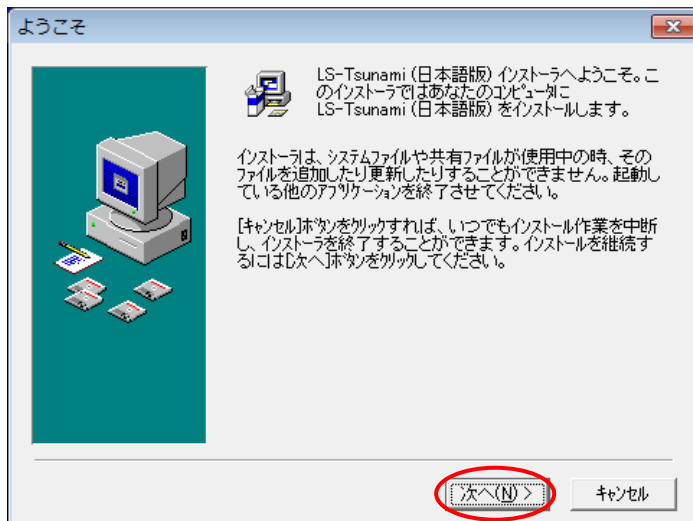
上記以外のグラフィック環境で、表示が極端に遅いなどの問題が発生する場合は、画面のプロパティ・設定・詳細設定・トラブルシューティングの「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定してください。

1-3. インストール方法

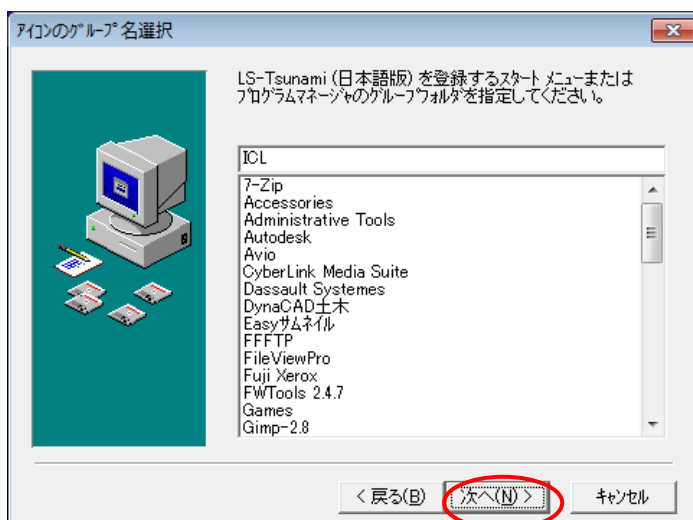
ここでは、LS-Tsunami をインストールする手順を説明します。

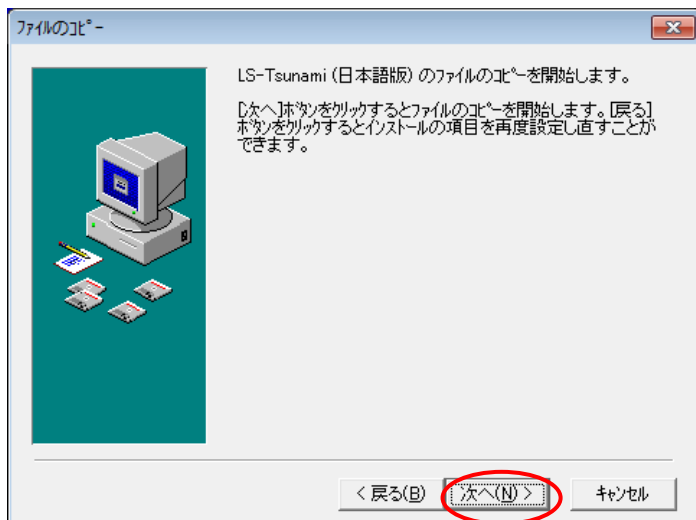
インストール CD を挿入してインストールボタンをクリックすると、以下のようなセットアップ画面が立ち上がります。

「次へ」をクリックするとインストールが始まります。



C ドライブ以外へインストールする場合は、インストール先を設定してください。





以下の画面が出たら、インストールは完了です。
「完了」 ボタンをクリックしてインストールを終了してください。



次にプロテクタドライバをインストールします。インストール方法は、CD 内の **manual** フォルダにある **guide.pdf** を参照してください。(評価版をご利用の方、および既にドライバインストール済みの方は必要ありません。)

1-4. 起動方法

本ソフトウェアを起動するには次のように操作してください。

[スタート]－[(すべての)プログラム]→[ICL]→[LS-Tsunami (日本語)]

本ソフトウェアを起動したら、以下のような起動画面が現れます。

(※設定により作業画面から始めることもできます。)

LS-Tsunami

地すべり・津波統合シミュレーション (LS-Tsunami)

特定非営利活動法人 国際斜面災害研究機構 (ICL) 佐々 恭二

地すべり・津波統合シミュレーション (LS-Tsunami) は、地震、豪雨、自然的・人工的地形改変、あるいはその複合効果によって引き起こされる大規模高速地すべりが、海、湖、川、ダム湛水範囲の突入することによって引き起こされる津波伝搬を予測するための地すべり発生・運動過程と津波発生・伝搬過程を統合したシミュレーションです。陸上では斜面土層の中の柱状要素にかかる全ての力の合力による土塊の加速度を計算し、水中では、地すべり土塊と水を含む柱状要素にかかる全ての力の合力による水の加速度を計算します。まず、LS-RAPID で計算した地すべりの発生と運動を式 1 と 3 で計算し、海底・湖底・川底を地すべり土塊が進むときに、その地すべり土塊の厚さだけ水が持ち上がることに伴う津波発生と伝搬を式 2 と 3 で計算するモデルです。

地すべり運動の基礎式

$$am_s = (W + F_v + F_x + F_y) + \left(\frac{\partial P_x}{\partial x} \Delta x + \frac{\partial P_y}{\partial y} \Delta y \right) + R \quad \text{----- (1)}$$

水の運動の基礎式

$$am_w = \frac{\partial P_x}{\partial x} \Delta x + \frac{\partial P_y}{\partial y} \Delta y + R(\text{Manning}) \quad \text{----- (2)}$$

柱状要素に入る土量/水量のみ要素の高さが変化することの条件式

$$\frac{\partial h}{\partial t} + \frac{\partial M}{\partial x} + \frac{\partial N}{\partial y} = 0 \quad \text{----- (3)}$$

☐ この画面は次回から表示しない
Start

2. このプログラムでできること

本プログラムでは、以下の機能があります。

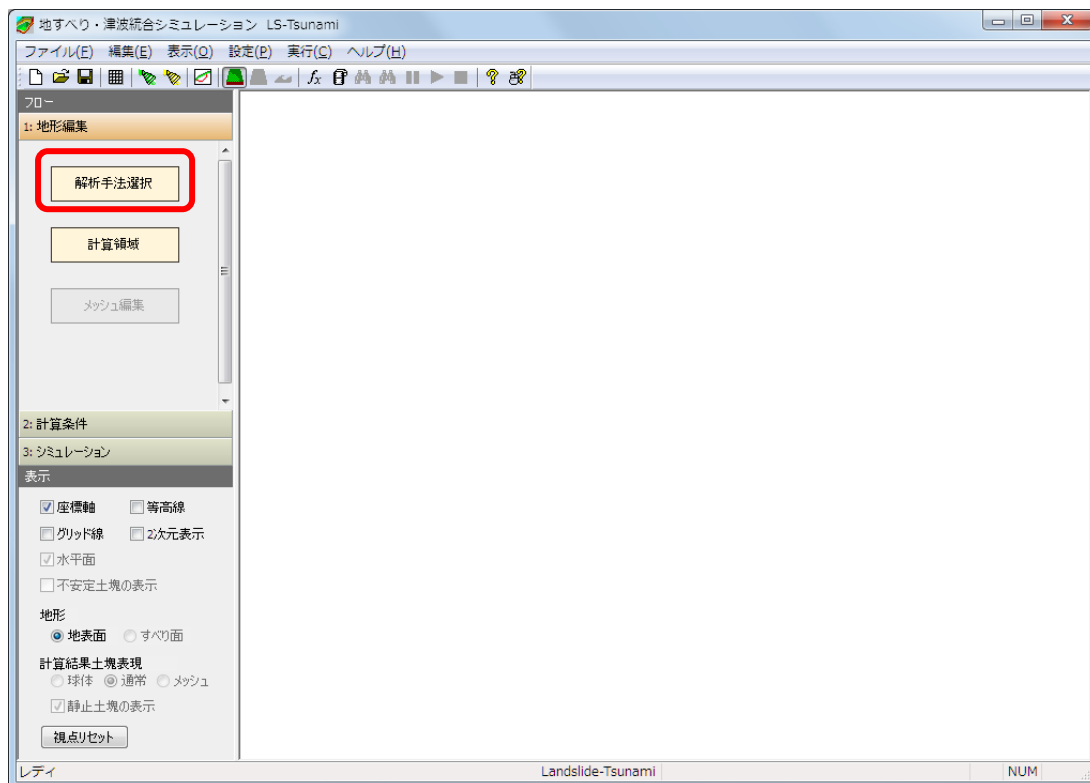
1) 地すべり+津波シミュレーション

LS-RAPID によって地すべりシミュレーションを行い、得られた土砂の移動・変形状態によって、発生する津波のシミュレーションを行います。(→第3章へ進みます)

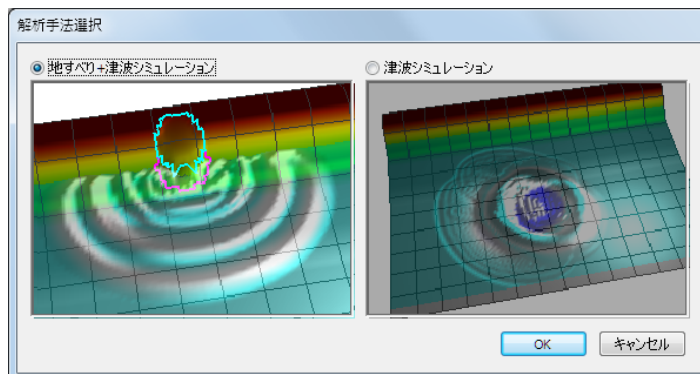
2) 津波シミュレーション

地震による変位を入力することによって、発生する津波のシミュレーションを行います。(→第4章へ進みます)

フローコマンドの[解析手法選択]を選択します。



解析手法選択の画面が現れます。



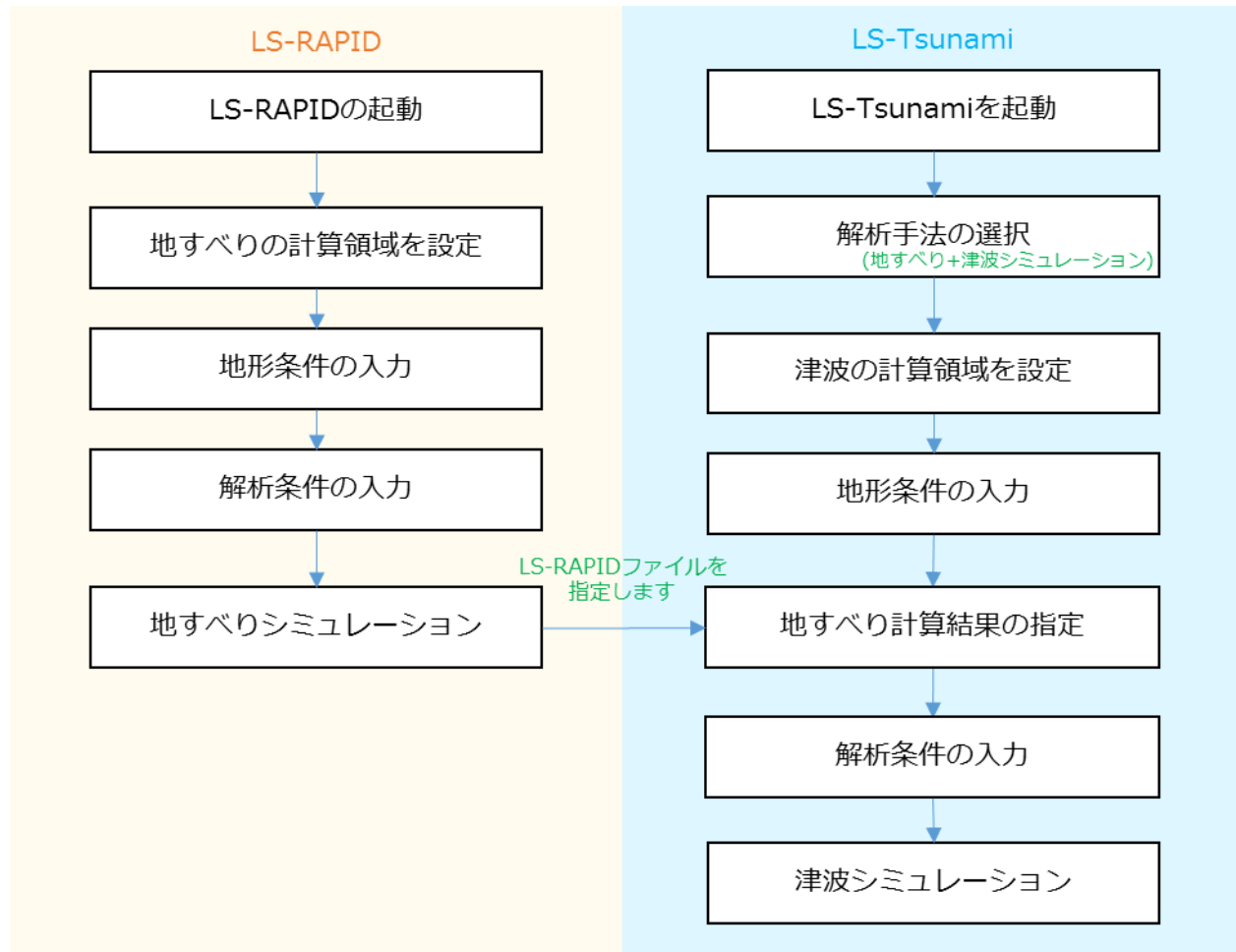
地すべりによる津波を解析したい場合は「地すべり+津波シミュレーション」を、断層などによる津波の発生を解析したい場合は「津波シミュレーション」を選択します。

3. 地すべり+津波シミュレーション

3-1. シミュレーションまでの流れ

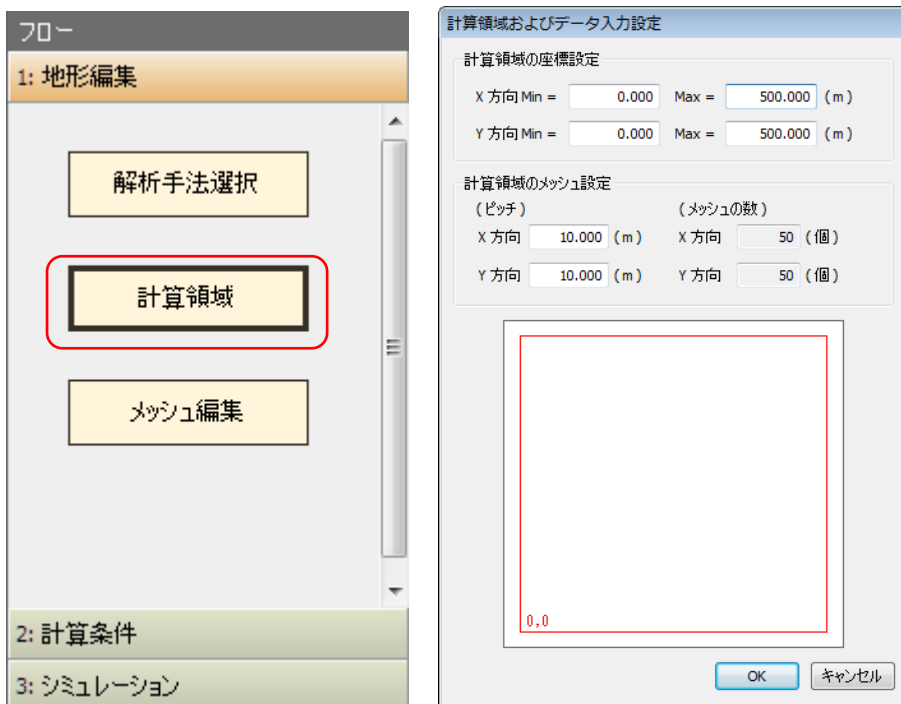
地すべりと津波を連動させて解析する場合は、先の[解析手法選択]で、「地すべり+津波シミュレーション」を選択します。

地すべり+津波シミュレーションの大まかな流れは以下になります。



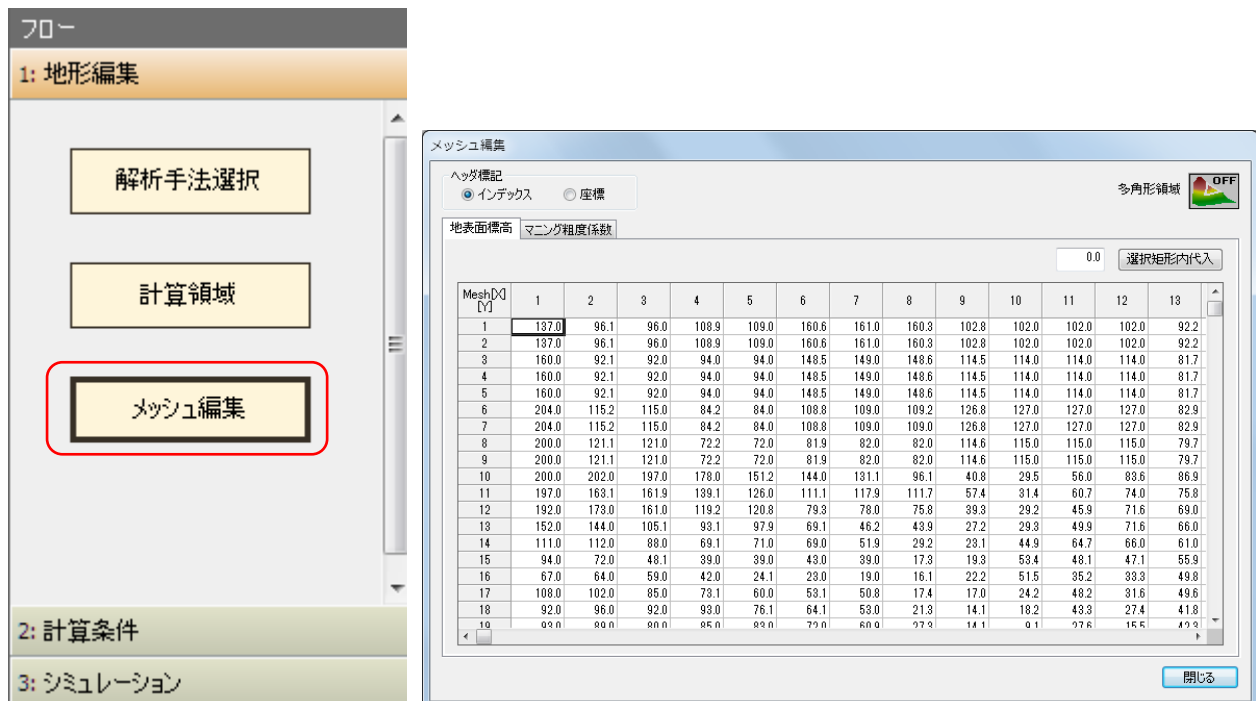
3-2. 計算領域の設定

フローコマンドの [計算領域] を選択し、計算領域の詳細を設定します。設定方法は LS-RAPID と同様です。

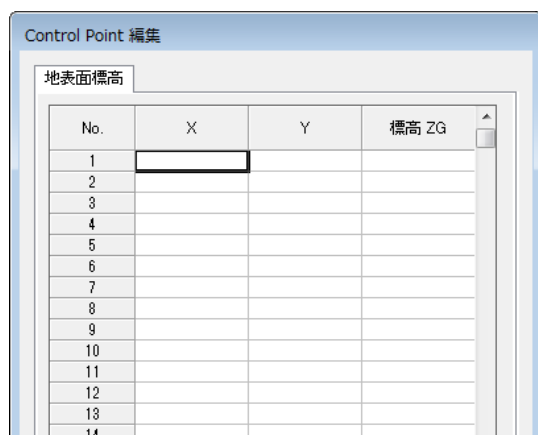
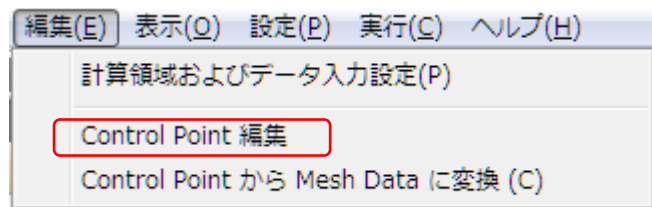


3-3. 地形条件の入力

フローコマンドの [メッシュ編集] を選択し、地形を入力します。




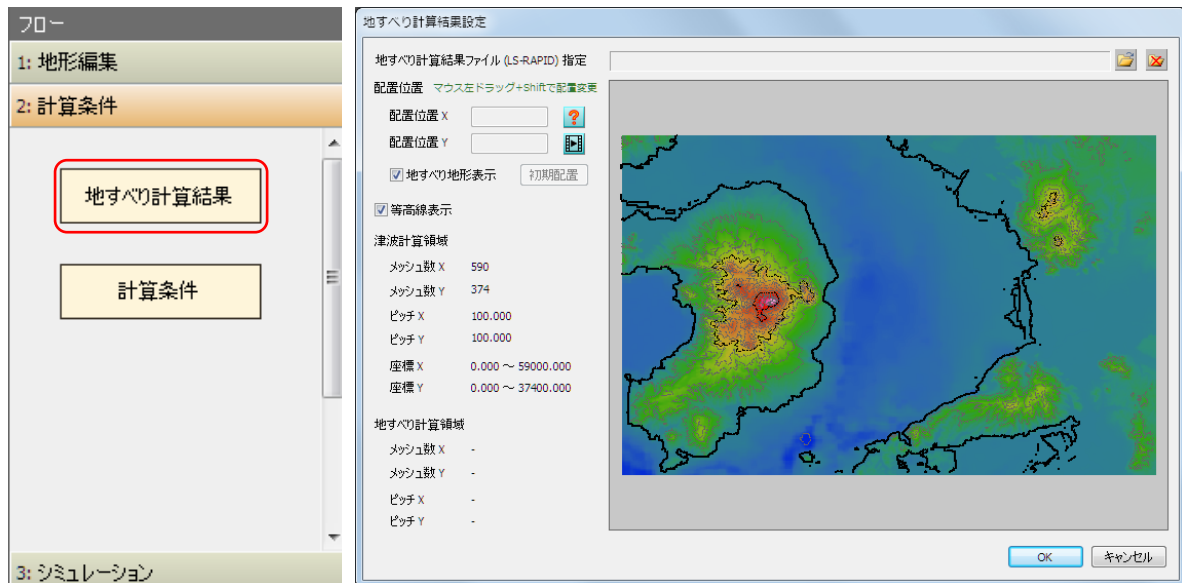
また Mesh Data 以外のランダム標高点があった場合、あらかじめ [Control Point 編集] で、以下のデータエリアを表示してデータをコピー・ペーストした後、[Control Point から Mesh Data に変換] を利用して Mesh Data を作成することができます。



※地形の入力は LS-RAPID と同様です。LS-RAPID マニュアル第 3 章を参照ください。

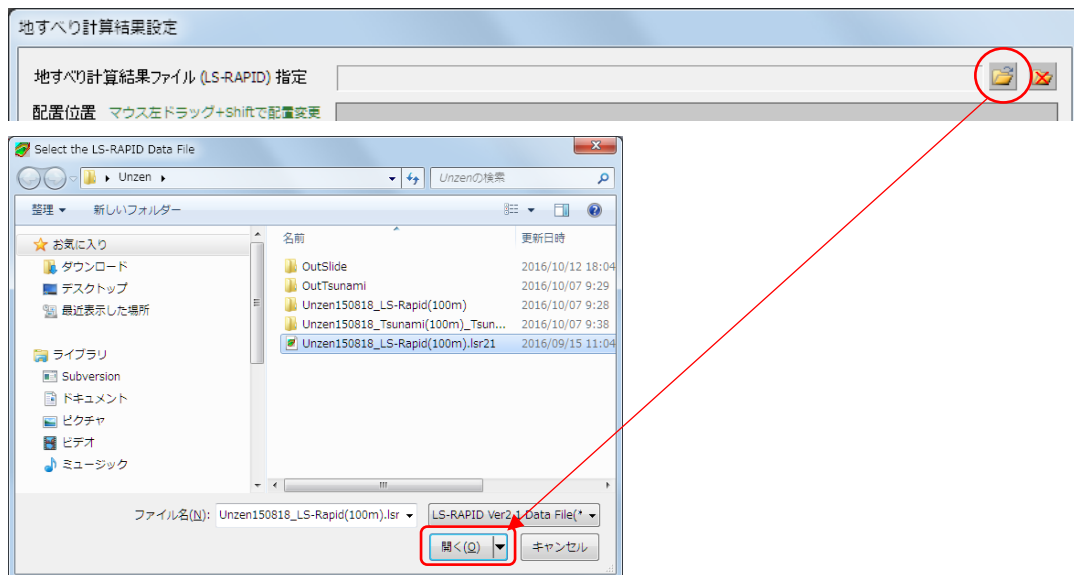
3-4. 地すべり計算結果の読み込み

フローコマンドの [地すべり計算結果] を選択し、地すべりシミュレーション地形を津波シミュレーション地形上に配置します。 ボタンをクリックすると、配置までの一連の流れを動画で確認できます。

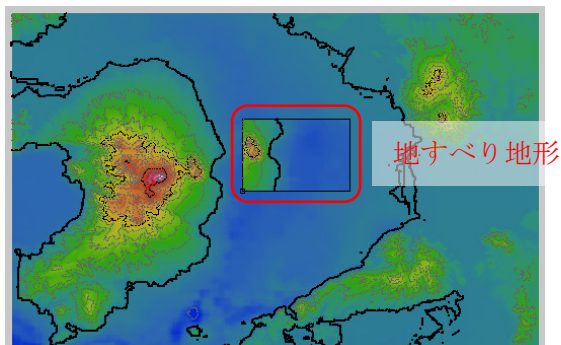


(1) 地すべりシミュレーション (LS-RAPID ファイル) 読み込み


地すべりシミュレーションを行なった LS-RAPID ファイルを指定します。

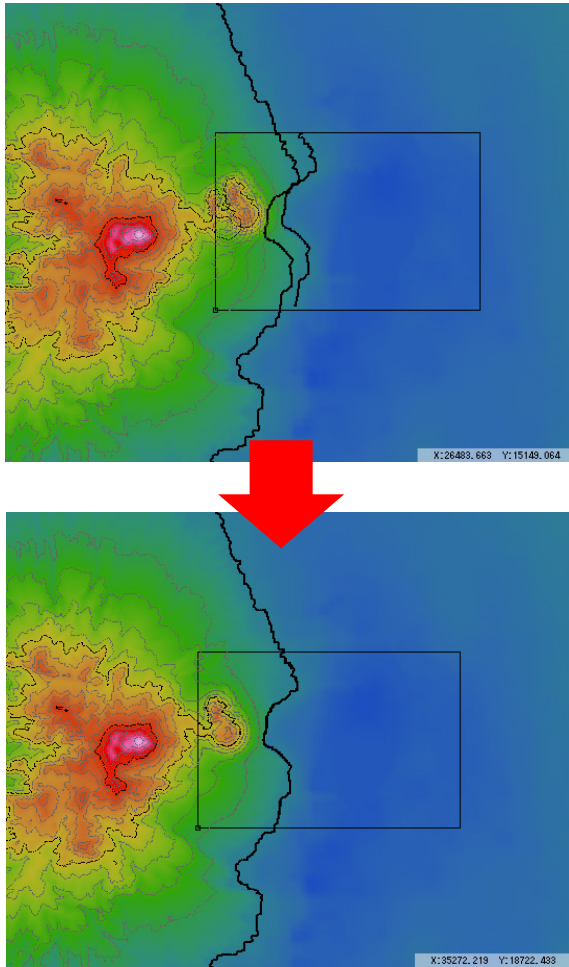


地すべり地形が表示されます。



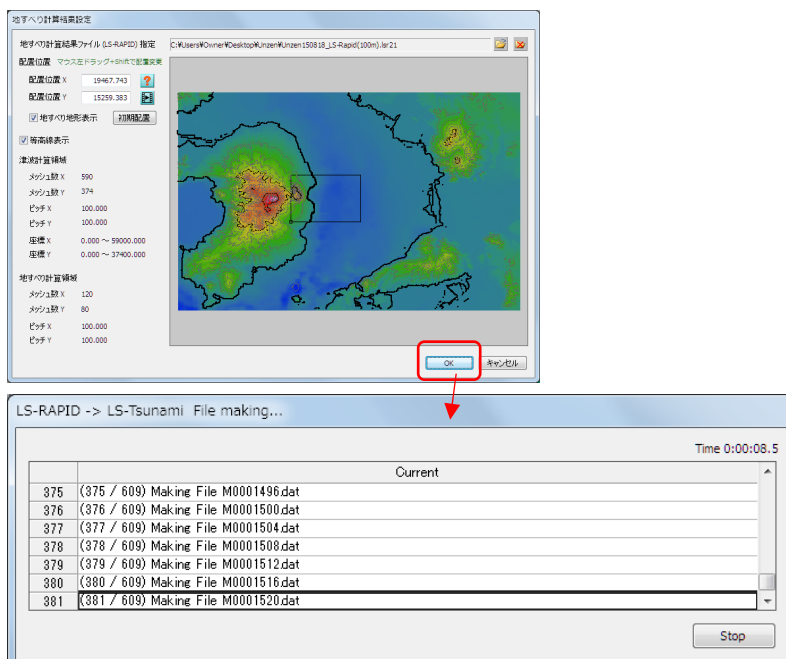
(2) 地すべり地形の配置

マウスホイールドラッグで地すべり地形を正しい位置に配置して下さい。マウス操作については  ボタンで操作方法を見ることができます。



(3) OK ボタンクリック

OK ボタンをクリックすると地すべりシミュレーション結果が読み込まれます。



■注意事項

LS-RAPID 側の解析は、通常の地すべりシミュレーションの解析と同様に行ないますが、以下の注意が必要です。

①地すべりシミュレーションの解析は水没計算を行なってください。

LS-RAPID 側設定

フロー

1: 地形編集

2: 計算条件

土質パラメータ

計算条件

タイムステップ

その他の設定

計算条件の設定 (地すべりシミュレーション)

シミュレーションの条件

運動シミュレーション

発生・運動・拡大シミュレーション

常時のシミュレーション

地震時のシミュレーション

水圧をかける

雨量データ入力

水圧(間隙圧比 r_u)

変動開始までの時間 0.0 (sec)

静的

値を実動させる

Min = 0.00

継続時間 = 9999.9 (sec)

Max = 0.22

Max Time = 5.0 (sec)

動的

水圧値 r_u の入力

強度低下条件パラメータ

発生域 (移動領域による低下)

From (DL) 10 To (DU) 200 (mm)

発生域以外 (土塊高さによる低下)

Δh_{cr} 2.00 (m)

水没計算時

水没計算を行う

水面の標高 0 (m)

水の単位体積重量 (γ_w) 10.100 (kN/m³)

グラフ表示

震度係数(K)

変動開始までの時間 10.0 (sec)

静的

動的

地震

地震波形の編集

Static / Cyclic 係数

水平地震動

方向別震度係数

X 方向 K_x = 0.000

Y 方向 K_y = 0.000

水平震度係数

K_h = 0.000

地震載荷方向 θ = 0.0 (°)

鉛直地震動

鉛直震度係数 K_v = 0.000

周波数・上昇下降時間・継続時間

値を実動させる

継続時間 = 60.0 (sec)

Hz = 0.00

Max Time = 60.0 (sec)

Total Cycle (N) = 10

Kmax Cycle (N) = 10

Seismic 係数

K_x max = 0.346 EW 加速度(g)/980 x 0.500 (倍)

K_y max = 0.377 NS 加速度(g)/980 x 0.500 (倍)

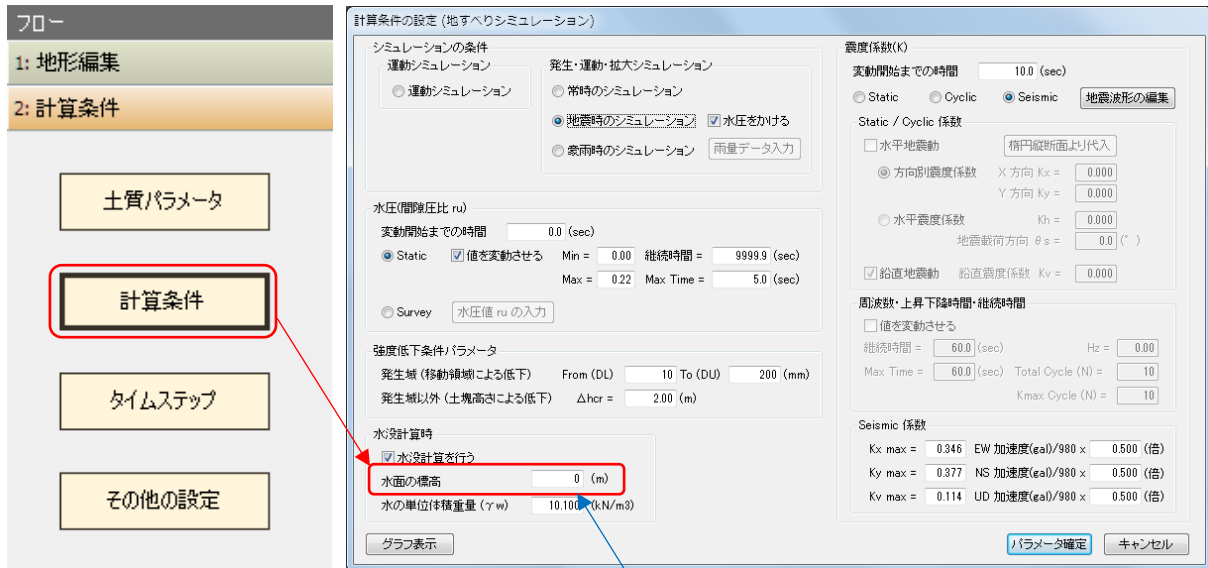
K_v max = 0.114 UD 加速度(g)/980 x 0.500 (倍)

パラメータ確定

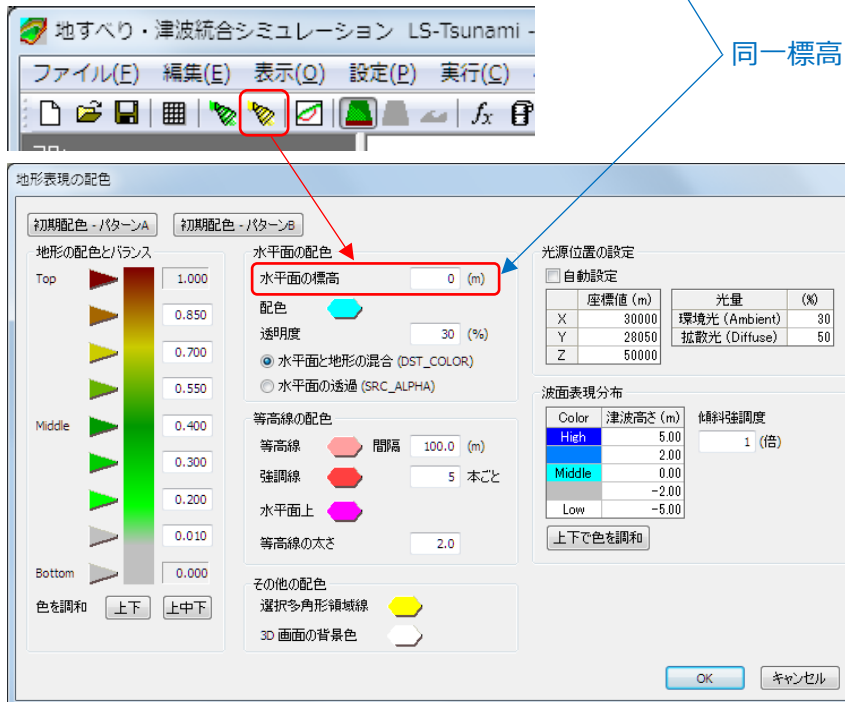
キャンセル

②地すべりシミュレーションと津波シミュレーションの水面は同一標高を設定して下さい。

LS-RAPID 側設定

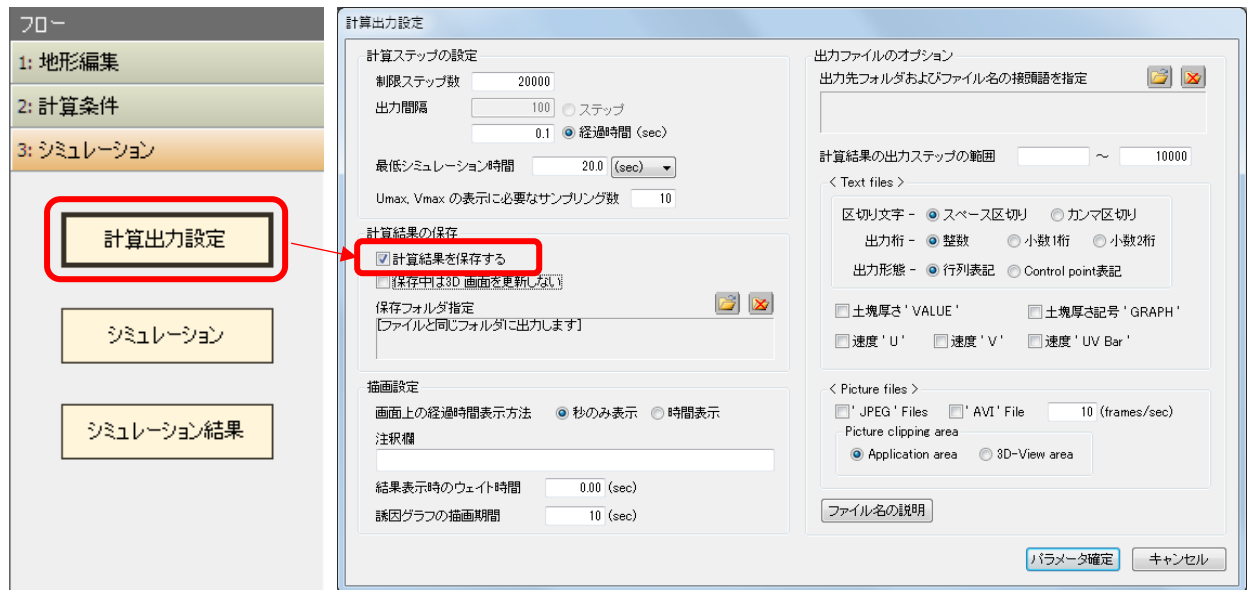


LS-Tsunami 側設定



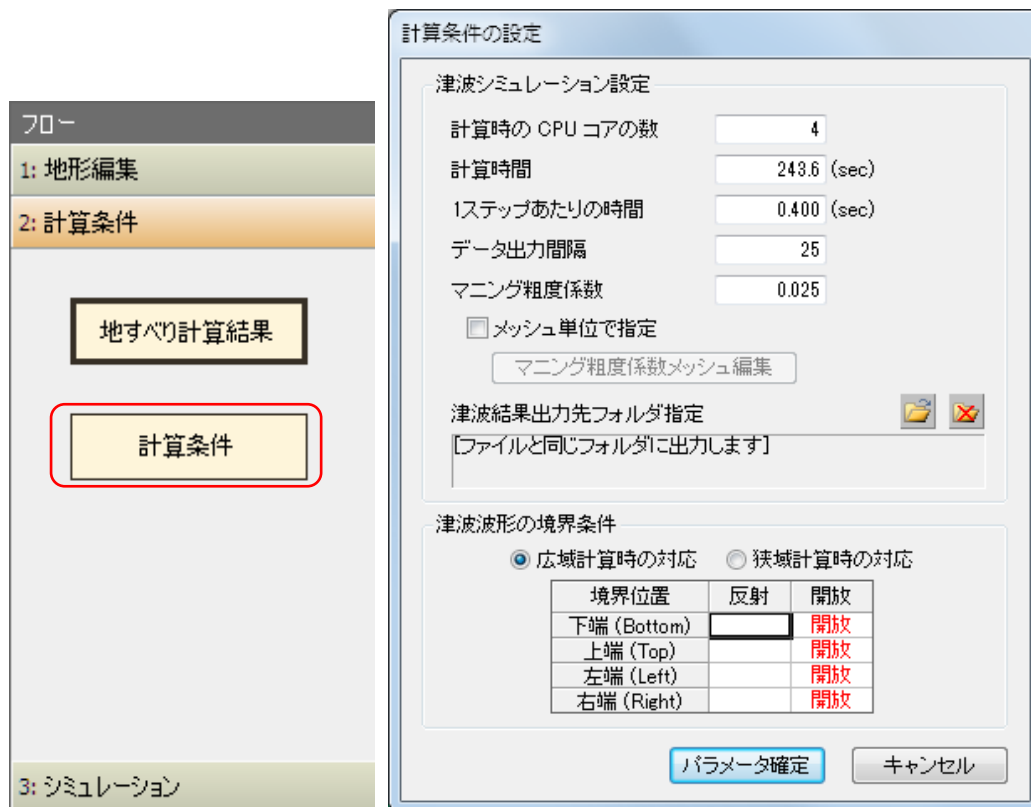
③LS-RAPID の出力オプションで「計算結果を保存する」にチェックをつけて下さい(デフォルトでチェックが付いています)。

LS-RAPID 側設定



3-5. 計算条件の設定

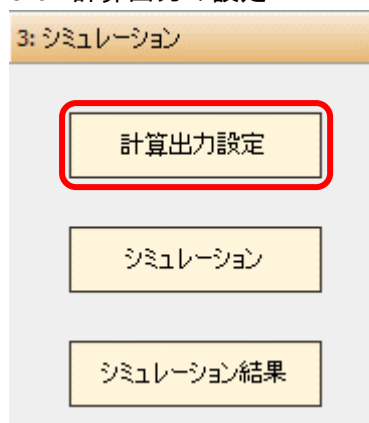
計算条件を設定します。



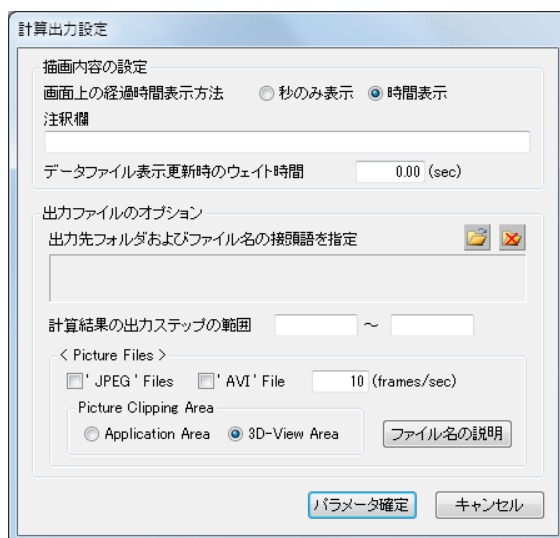
項目	説明
計算時の CPU コアの数	計算に使う CPU コアの数を設定します。コアの数はパソコンによって異なります。全てのコアを使用すると他の作業がやりにくくなりますので、経験則で設定してください。
計算時間	計算する時間を入力します。計算範囲によって変えるのが良いと思います。
1 ステップあたりの時間	1 ステップ当たりの時間を入力します。計算時間／1 ステップあたりの時間が計算ステップ数となります。LS-RAPID で計算結果を出力した時間間隔を指定します。
データ出力間隔	解析したデータを出力するステップ間隔です。100 前後の設定が多いですが、計算時間によって調整します。
マニングの粗度係数	マニングの粗度係数を入力します。メッシュ単位で入力したい場合は [メッシュ単位で指定] にチェックして、[マニング粗度係数メッシュ編集] ボタンで入力してください。入力方法は地形などの入力と同方法です。

項目	説明
津波結果出力先フォルダ	津波の解析結果を出力するフォルダを指定します。通常は指定しなくてもかまいません。指定がない場合、このデータファイルがあるフォルダの下に、計算結果を格納するフォルダを作成します。指定する際、LS-RAPID データファイルが出力した標高計算結果フォルダを選択しないでください。このフォルダは、計算開始時にフォルダ内の全てのファイルを消去しますので、 重要なファイルのあるフォルダを指定することは避けてください。
津波波形の境界条件	<p>まず透過境界に対して、広域計算時の対応、もしくは狭域計算時の対応を選択します。広域計算時の対応では、線形進行波の条件を利用しています。微小振幅波が十分に適用可能な深い水深が境界になる場合に有効です（例えば、日本全体が入る領域）。狭域計算時の対応では、ゾンマーフェルト型の境界条件を利用しています。浅い海でも透過しやすいので、海岸近くでの計算に向いています。</p> <p>次に境界条件を設定します。解析波が境界に達した後、反射（壁境界）するのか開放（透過境界）するのかを選択します。ここで下端は地形入力座標で Y（-）、上端は Y（+）、左端は X（-）、右端は X（+）を意味しています。</p>
フロー2[計算条件]の「地すべり計算結果」で地すべりシミュレーションファイルを指定する度に、その LS-RAPID ファイルで設定した[計算時間]と[1 ステップ当たりの時間]が津波シミュレーション設定にコピーされます。	

3-6. 計算出力の設定



フローまたはメニューから、「実行」→「計算出力設定」を実行すると、以下のダイアログが現れます。



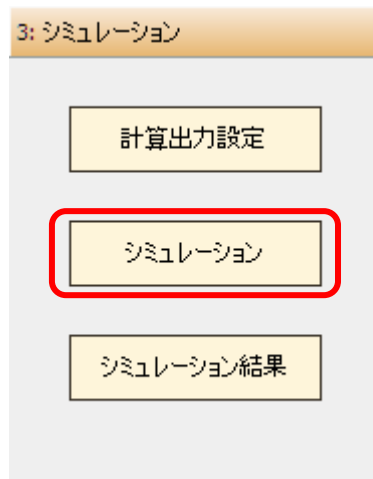
◆ 描画内容の設定

項目	説明
経過時間表示方法	<input type="radio"/> 秒のみ表示 <input checked="" type="radio"/> 時間表示 解析中、画面上に表示する経過時間の表示方法の設定です。解析時間に合わせて設定します。
注釈欄	シミュレーション中に表示するコメントを入力します。 ※ 注釈欄に登録できる文字列は半角英数字のみです。
データファイル表示更新時のウェイト時間	データファイルを読み込み、その結果を描画する場合の描画速度を調整できます。デフォルトは 0.0 ですが、ゆっくり描画したい場合はウェイト時間で調整してください。

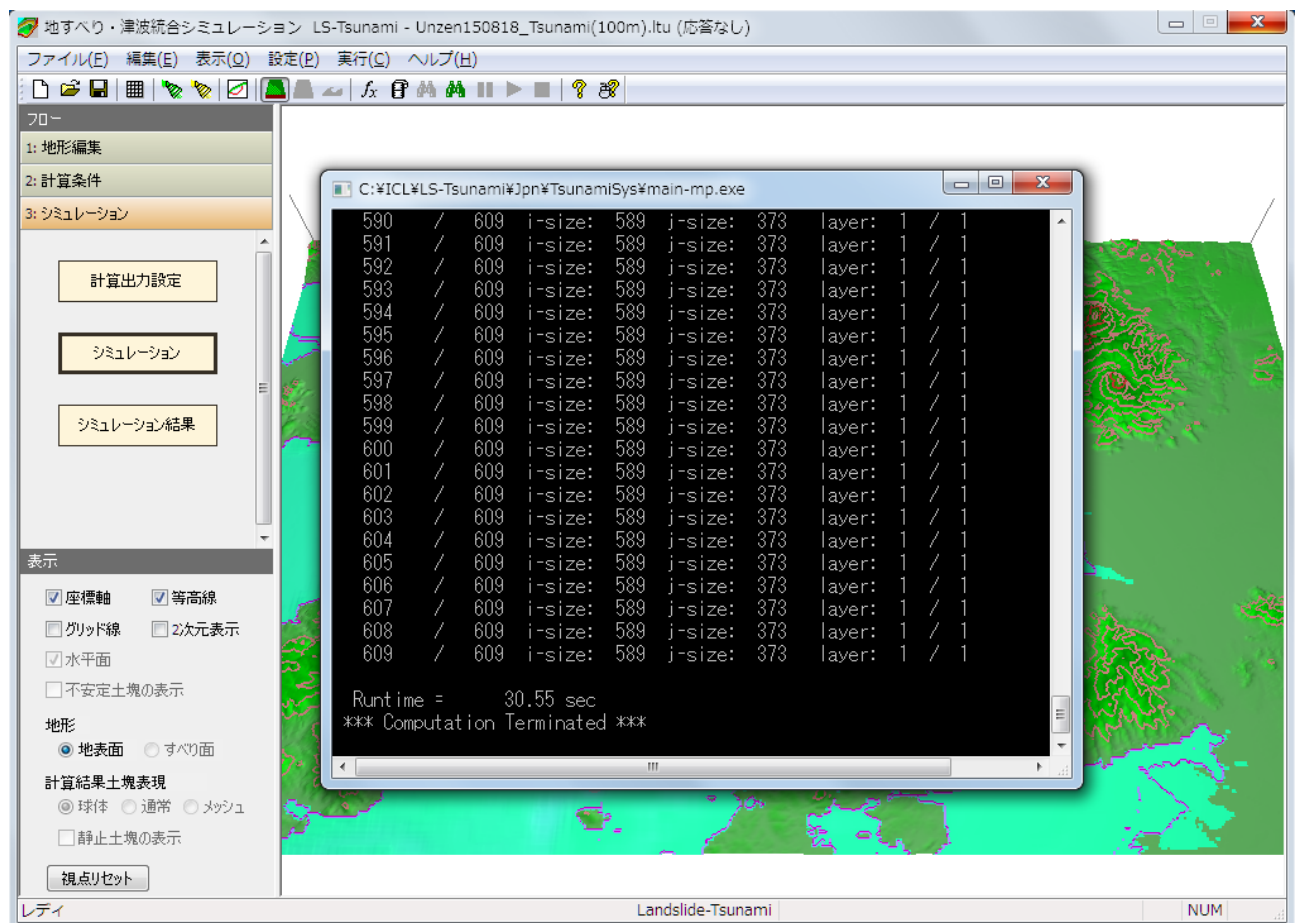
◆ 出力ファイルのオプション

項目	説明
出力先フォルダおよびファイル名の接頭語を指定	以下に説明するデータの出力先フォルダ及びファイルの頭文字を指定します。
計算結果の出力ステップの範囲	ここに値を入力するとこの範囲でデータを出力します。 (省略すると開始当初から(または終了時まで)出力します。)
Picture clipping area (画像ファイル出力時)	○ Application area ○ 3D-View area JPEG 画像・AVI 動画ファイル保存時に出力される領域をアプリケーション全体および 3D 画面範囲で選択します。(画像が正常に出力できなかった場合には 3D-View area を選択してください。)

3-7. シミュレーションの開始

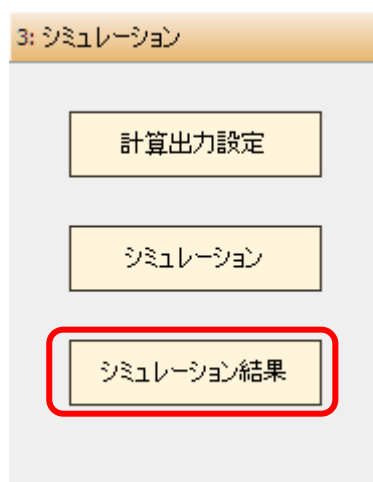


フローから「シミュレーション」を選択するとシミュレーションの開始を確認後、ウィンドウが出て計算が始まります。

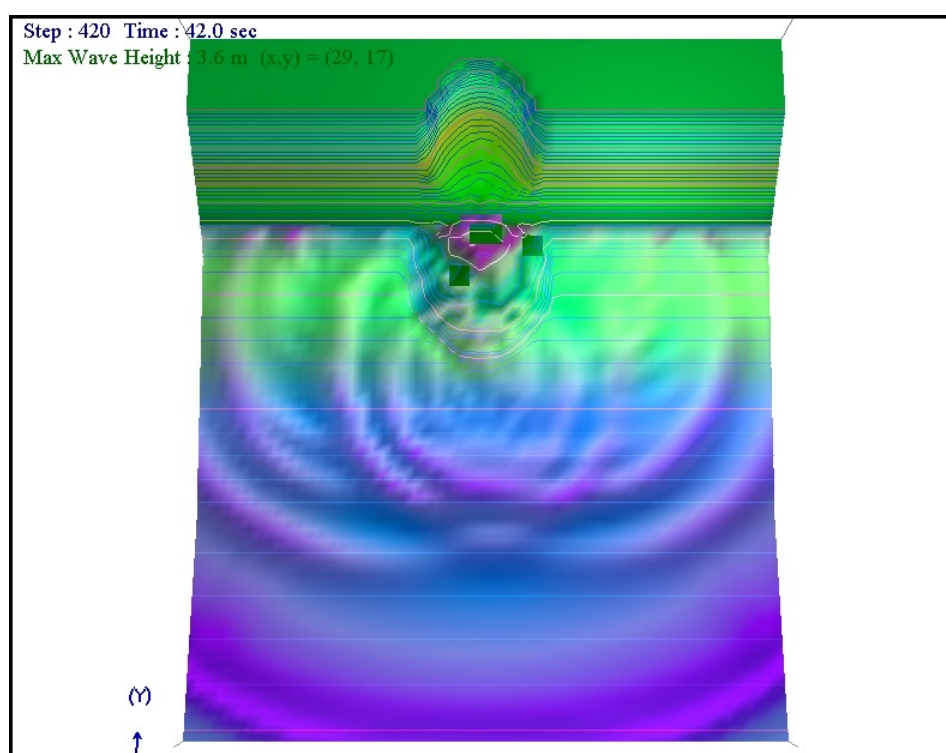


正常に計算が終了した場合は、Computation Terminated と表示されますので、ウィンドウを閉めてください。

3-8. シミュレーションの結果表示



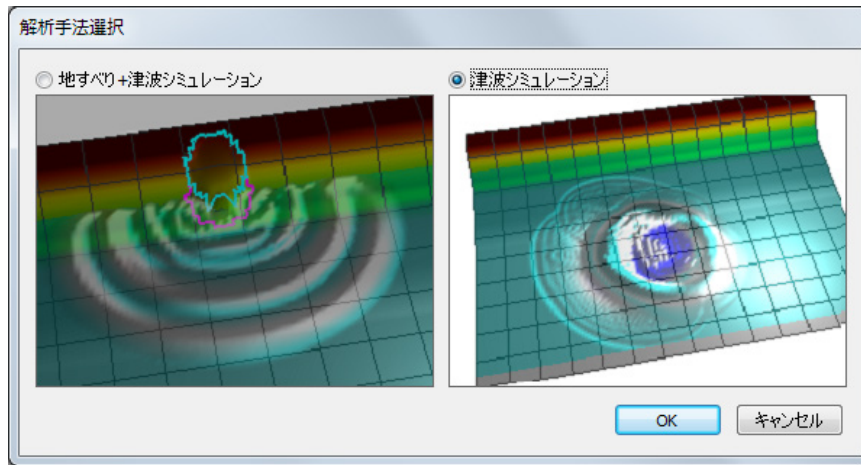
フローから「シミュレーション結果」を選択すると計算結果をアニメーションで表示出来ます。



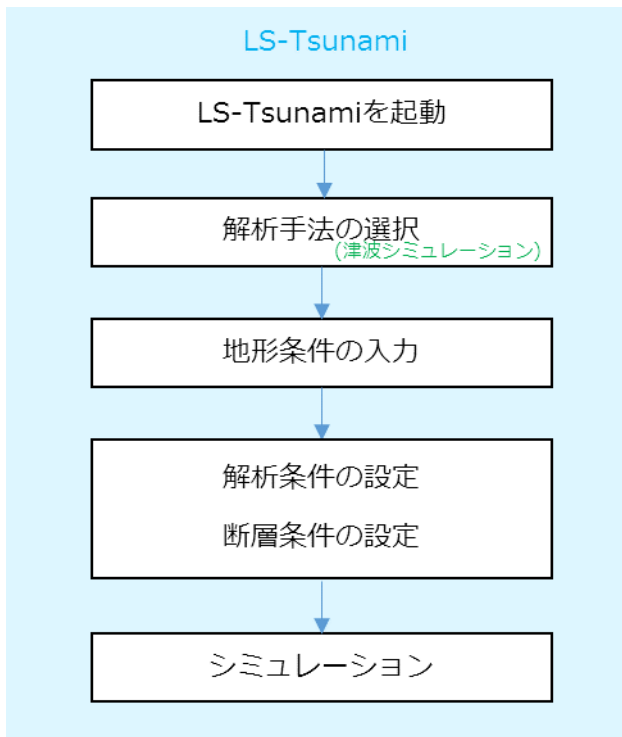
4. 津波シミュレーション

4-1. シミュレーションまでの流れ

断層などによる津波を解析する場合は、[解析手法選択]コマンドで、「津波シミュレーション」を選択します。

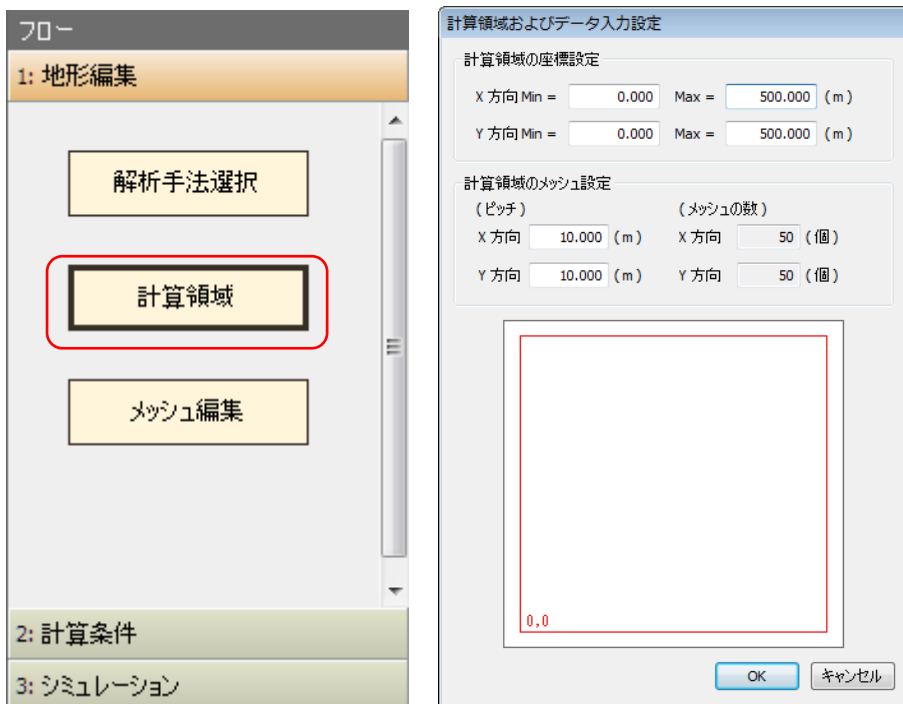


津波シミュレーションの大まかな流れは以下のようになります。



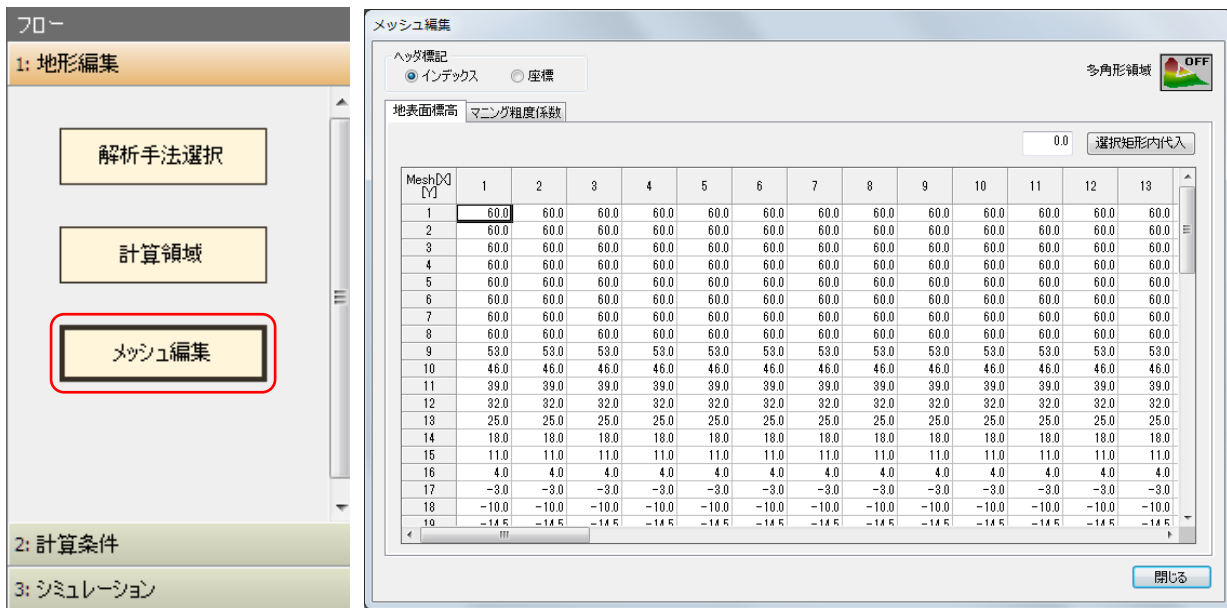
4-2. 計算領域の設定

フローコマンドの [計算領域] を選択し、計算領域の詳細を設定します。設定方法は LS-RAPID と同様です。

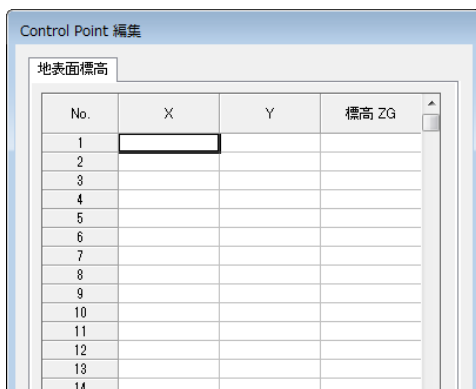
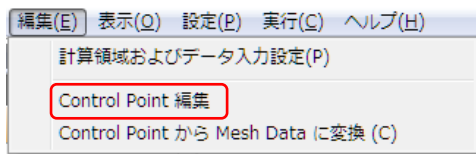


4-3. 地形条件の入力

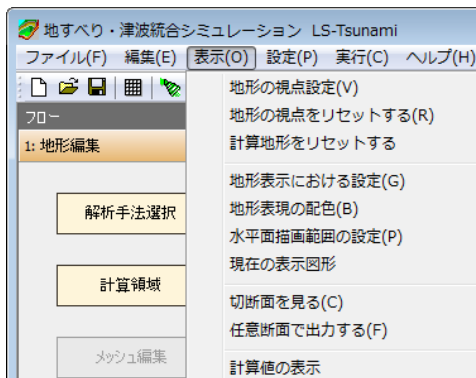
フローコマンドの [メッシュ編集] を選択し、地形を入力します。



また Mesh Data 以外のランダム標高点があった場合、あらかじめ [Control Point 編集] で、以下のデータエリアを表示してデータをコピー・ペーストした後、[Control Point から Mesh Data に変換] を利用して Mesh Data を作成することができます。

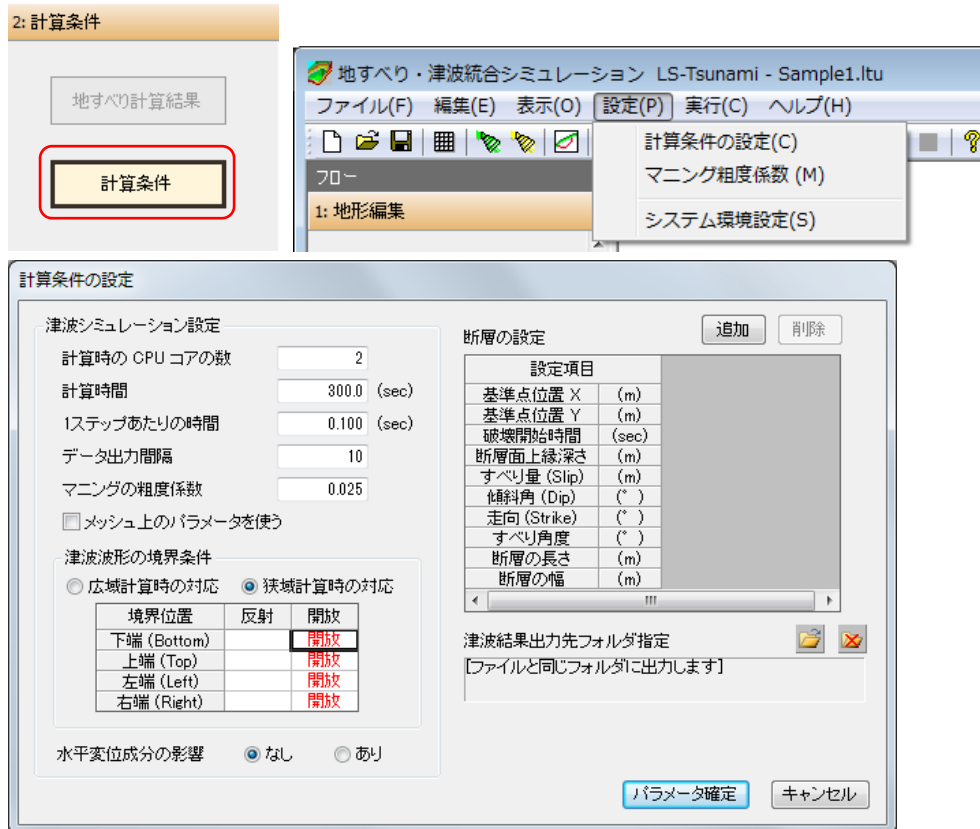


次に必要な場合、表示関係の設定を行います。設定方法は LS-RAPID と同様です。



4-4. 計算条件の設定

次に津波解析に必要なデータを入力します。これには[計算条件の設定]を選択します。メッシュ別のマニング粗度係数が必要ならば、メニューから[マニング粗度係数]を選択して入力します。




項目	説明
計算時の CPU コアの数	計算に使う CPU コアの数を設定します。コアの数はパソコンによって異なります。全てのコアを使用すると他の作業がやりにくくなりますので、経験則で設定してください。
計算時間	計算する時間を入力します。計算範囲によって変えるのが良いと思います。
1 ステップあたりの時間	1 ステップ当たりの時間を入力します。計算時間／1 ステップあたりの時間が計算ステップ数となります。計算範囲や計算時間によって調整します。
データ出力間隔	解析したデータを出力するステップ間隔です。100 前後の設定が多いですが、計算時間によって調整します。
マニングの粗度係数	マニングの粗度係数を入力します。 [<input type="checkbox"/> メッシュ上のパラメータを使う]にチェックを入れると、ここで設定した係数ではなく[設定]-[マニング粗度係数]画面の設定が計算に反映されるようになります。

項目	説明
津波波形の境界条件	<p>まず透過境界に対して、広域計算時の対応、もしくは狭域計算時の対応を選択します。広域計算時の対応では、線形進行波の条件を利用しています。微小振幅波が十分に適用可能な深い水深が境界になる場合に有効です（例えば、日本全体が入る領域）。狭域計算時の対応では、ゾンマーフェルト型の境界条件を利用しています。浅い海でも透過しやすいので、海岸近くでの計算に向いています。</p> <p>次に境界条件を設定します。解析波が境界に達した後、反射（壁境界）するのか開放（透過境界）するのかを選択します。ここで下端は地形入力座標で Y（－）、上端は Y（＋）、左端は X（－）、右端は X（＋）を意味しています。</p>
水平変位成分の影響	<p>地形に勾配がある場合、鉛直成分の断層変位だけではなく、水平成分も津波の初期水位に影響します。それを計算に考慮するかしないかの選択です。</p>
断層の設定	<p>断層運動による地殻変動を計算するためのパラメータです。</p>
基準点位置 X,Y(m)	断層の平面位置の基準となる点座標を入力をします。
破壊開始時間(sec)	断層が破壊する時間を入力します。
断層面上縁深さ(m)	断層面の基準点位置の地表面からの深度を入力をします。
すべり量 Slip(m)	断層面上のすべり距離を入力します。
傾斜角 Dip(°)	断層面上の最大傾斜角度を入力します。
走向 Strike(°)	断層面の走向で、北を 0° として時計回りを正とした角度で入力します。
すべり角度(°)	断層面のすべり角度で、水平方向右側を 0° として反時計回りを正とした角度で入力します。
断層の長さ(m)	断層の長さを入力します。
断層の幅(m)	断層の幅を入力します。
津波結果出力先フォルダ	<p>津波の解析結果を出力するフォルダを指定します。通常は指定しなくてもかまいません。指定がない場合は、このデータファイルがあるフォルダの下に、計算結果を格納するフォルダを作成します。このフォルダは、計算開始時にフォルダ内の全てのファイルを消去しますので、重要なファイルのあるフォルダを指定することは避けてください。</p>

以下は[マニング粗度係数]を入力するときの画面です。

メッシュ編集

ヘッダ標記
☒ インデックス ☐ 座標

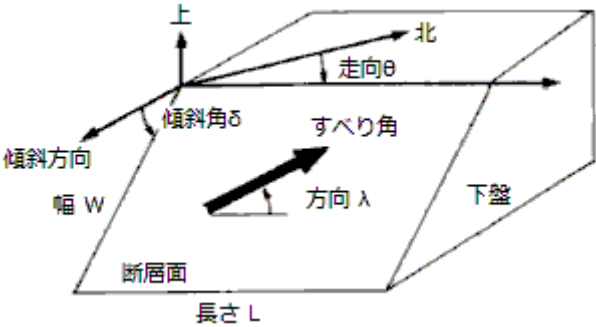
多角形領域 

地表面標高 マニング粗度係数

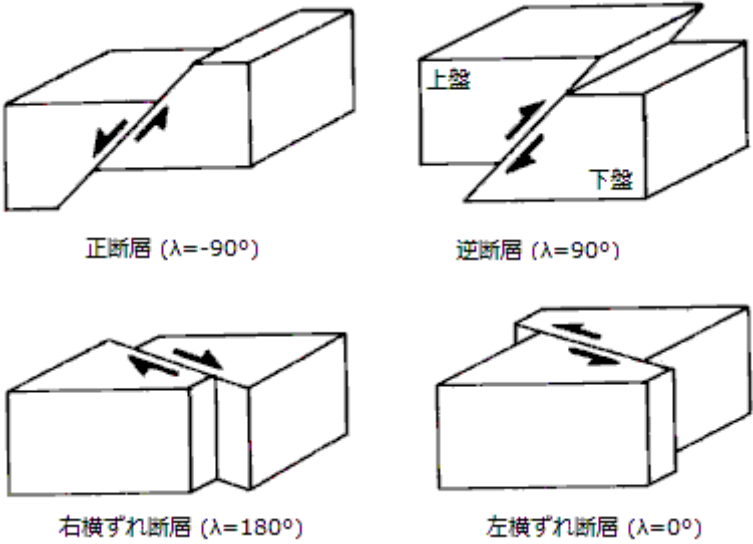
0.000 選択矩形内代入

Mesh[X] [Y]	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
2	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
3	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
4	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
5	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
6	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
7	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
8	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
9	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
10	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
11	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
12	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
13	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
14	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
15	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
16	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
17	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
18	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

閉じる



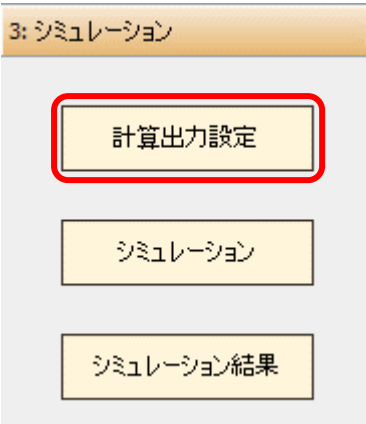
(図 1) 断層モデルと断層パラメータ(すべり角の矢印は下盤に対する上盤の運動方向を示す)



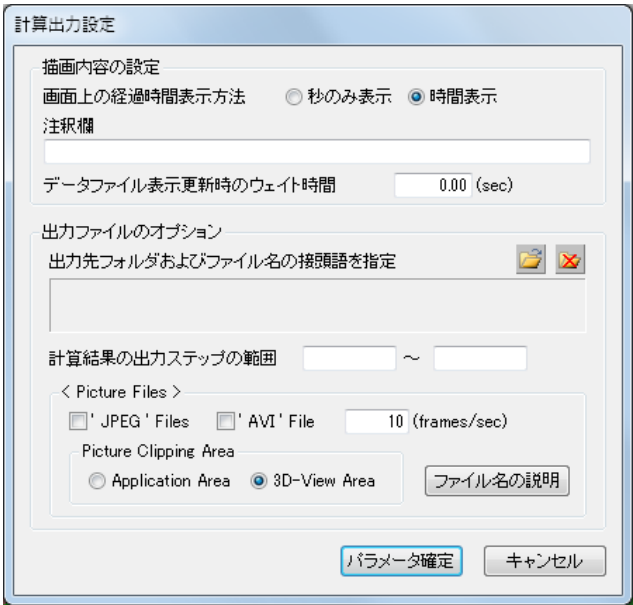
(図 2) 断層の分類

参考文献：日本の地震断層パラメーター・ハンドブック p.24-25 (鹿島出版会,1989)

4-5. 計算出力の設定



フローまたはメニューから、「実行」→「計算出力設定」を実行すると、以下のダイアログが現れます。



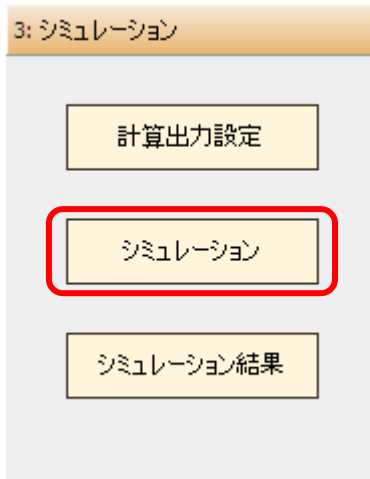
◆ 描画内容の設定

項目	説明
経過時間表示方法	<input type="radio"/> 秒のみ表示 <input type="radio"/> 時間表示 解析中、画面上に表示する経過時間の表示方法の設定です。解析時間に合わせて設定します。
注釈欄	シミュレーション中に表示するコメントを入力します。 ※ 注釈欄に登録できる文字列は半角英数字のみです。
データファイル表示更新時のウェイト時間	データファイルを読み込み、その結果を描画する場合の描画速度を調整できます。デフォルトは 0.0 ですが、ゆっくり描画したい場合はウェイト時間で調整してください。

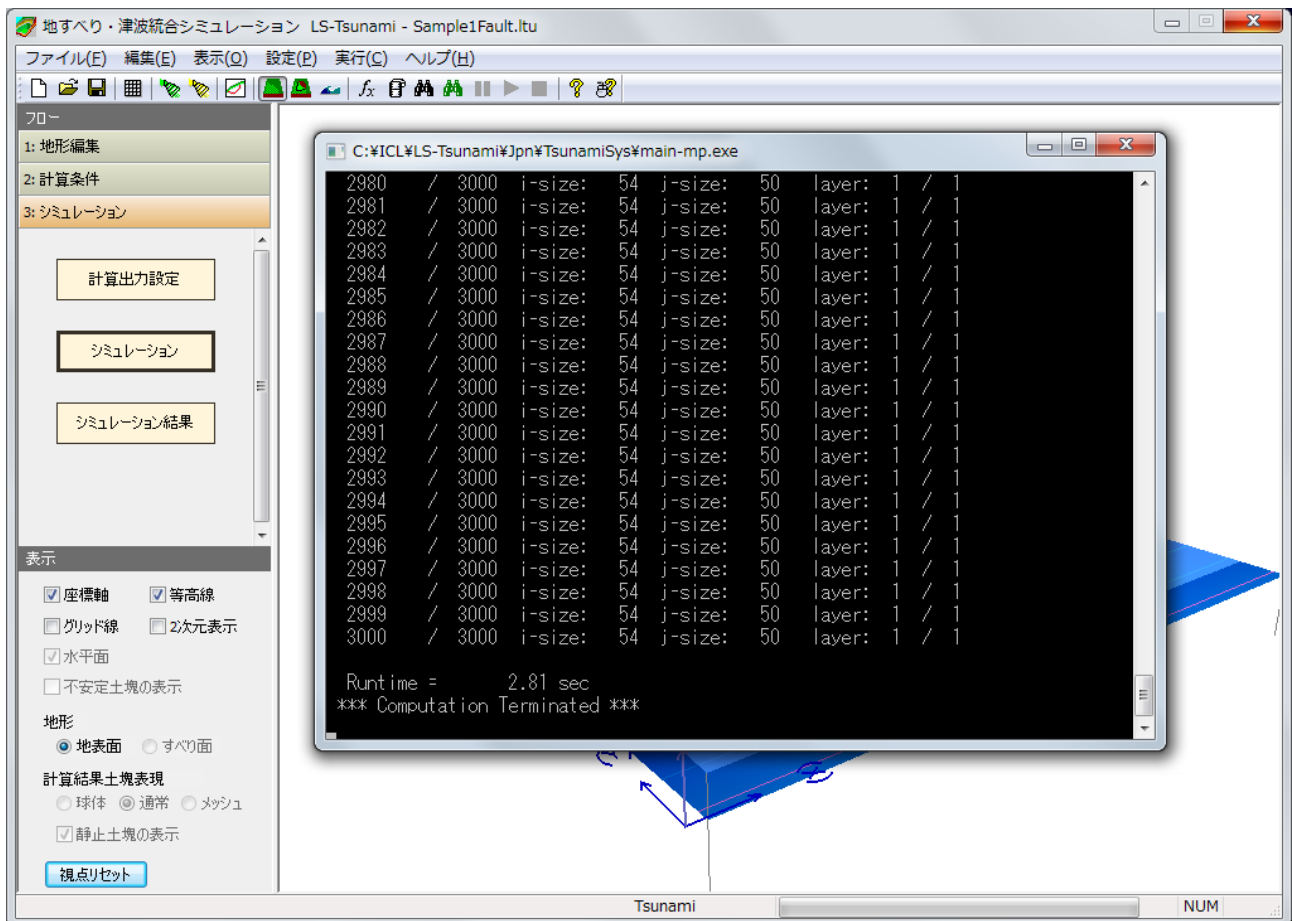
◆ 出力ファイルのオプション

項目	説明
出力先フォルダおよびファイル名の接頭語を指定	以下に説明するデータの出力先フォルダ及びファイルの頭文字を指定します。
計算結果の出力ステップの範囲	ここに値を入力するとこの範囲でデータを出力します。 (省略すると開始当初から(または終了時まで)出力します。)
Picture clipping area (画像ファイル出力時)	○ Application area ○ 3D-View area JPEG 画像・AVI 動画ファイル保存時に出力される領域をアプリケーション全体および 3D 画面範囲で選択します。(画像が正常に出力できなかった場合には 3D-View area を選択してください。)

4-6. シミュレーションの開始

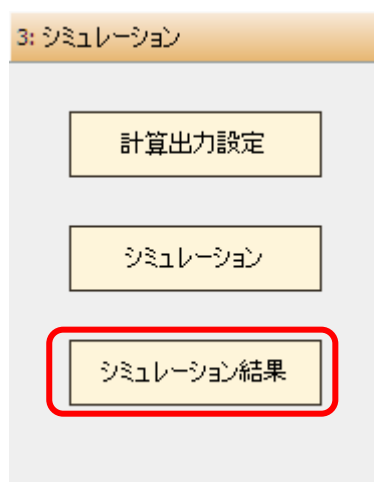


フローから「シミュレーション」を選択するとシミュレーションの開始を確認後、ウィンドウが出て計算が始まります。

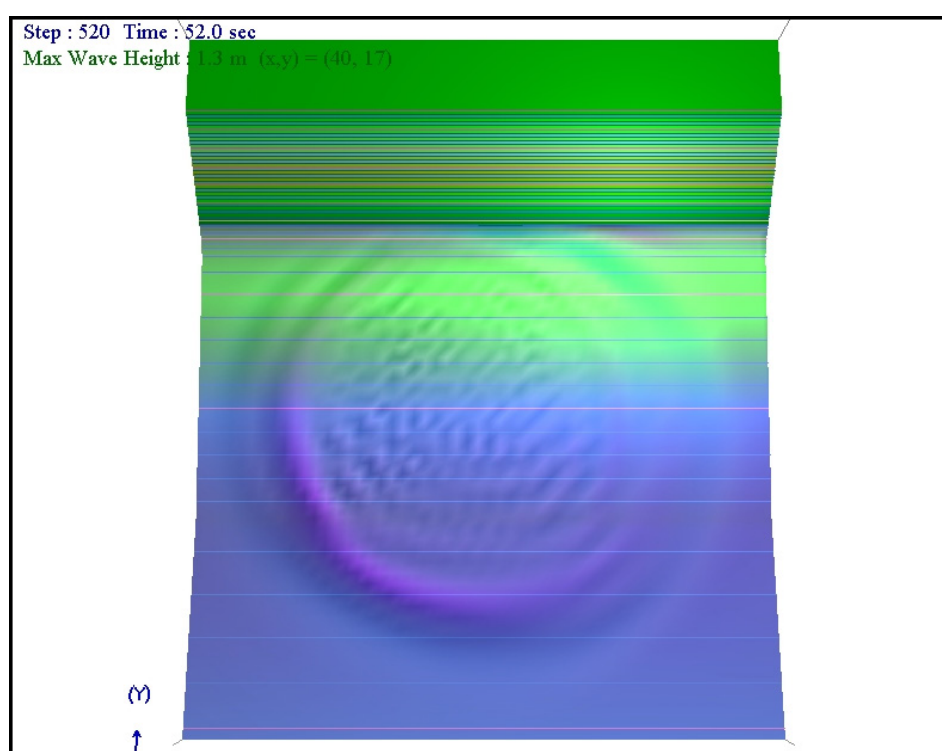


正常に計算が終了した場合は、Computation Terminated と表示されますので、ウィンドウを閉めてください。

4-7. シミュレーションの結果表示



フローから「シミュレーション結果」を選択すると計算結果をアニメーションで表示出来ます。



Landslides

DOI 10.1007/s10346-016-0691-9

Received: 9 January 2016

Accepted: 23 February 2016

© Springer-Verlag Berlin Heidelberg 2016

Kyoji Sassa · Khang Dang · Hideaki Yanagisawa · Bin He

A new landslide-induced tsunami simulation model and its application to the 1792 Unzen-Mayuyama landslide-and-tsunami disaster

Abstract By combining landslide dynamics research and tsunami research, we present an integrated series of numerical models quantitatively simulating the complete evolution of a landslide-induced tsunami. The integrated model simulating the landslide initiation and motion uses measured landslide dynamic parameters from a high-stress undrained dynamic-loading ring shear apparatus. It provides the numerical data of a landslide mass entering and moving under water to the tsunami simulation model as the trigger of tsunami. The series of landslide and tsunami simulation models were applied to the 1792 Unzen-Mayuyama megaslide and the ensuing tsunami disaster, which is the largest landslide disaster, the largest volcanic disaster, and the largest landslide-induced tsunami disaster to have occurred in Japan. Both the 1792 megaslide and the tsunami portions of the disaster are well documented, making this an excellent test of the reliability and precision of the new simulation model. The simulated tsunami heights at the coasts well match the historical tsunami heights recorded by “Tsunami-Dome-Ishi” (a stone showing the tsunami reaching point) and memorial stone pillars.

Keywords Unzen-Mayuyama landslide · Landslide-induced tsunami · Undrained ring shear test · Computer simulation

Introduction

When a large landslide mass rapidly enters the sea, or a rapid landslide occurs under the sea, a tsunami wave is generated in the water as the landslide mass moves beneath the water. Landslide-induced tsunami has been studied by researchers with different backgrounds and methods. Ataie-Ashtiani and Yavari-Ramshe (2011) and Biscarini (2010) developed a landslide-induced tsunami model based on physical small-scale model experiments where a solid block was placed on an inclined plate and the mass slides into water in a water-tank to generate waves. The former simplified the landslide mass as a rigid body and the later simplified the landslide as a fluid. Glimsdal et al. (2013) developed a model for a real submarine landslide in Norway. The landslide mass was simplified as a flexible box, and the movement was as a deformable visco-plastic Bingham fluid.

Baba et al. (2012), based on the studies by Satake (2001) and Abe et al. (2008), simplified the real landslide movement as the vertical downward movement of a plate in the source area and the vertical upward movement of another plate in the deposition area. That is, the relative movements of the two plates simplified the real landslide movement in the sea floor. This method was applied to a small submarine landslide triggered by a 2009 M_w 6.4 earthquake in Suruga Bay, Japan. The tsunami heights were well monitored by tide gauges, ocean-bottom pressure gauges, ultra-sonic wave meters, and a GPS tsunami meter installed in and around the bay. 3-D bathymetric data around the landslide were obtained within the bay with a spatial resolution of 1.0-m grid using an autonomous

under water vehicle (AUV). The tsunami heights and wave forms which were obtained by integrating waves simulated the fault-only model (Aoi et al. 2010), and waves simulated by the submarine landslide-induced tsunami model reasonably matched the observed tsunami heights.

The authors were inspired by this case study that the vertical movement of the submarine ground surface due to landslide can well simulate the landslide-induced tsunami. All previous studies of landslide-induced tsunami have not used the motion of landslide simulated by the landslide dynamics model. A new 3-D landslide dynamics model (LS-RAPID) has been developed integrating the initiation and motion of landslides based on measured landslide dynamic parameters (Sassa et al. 2010). We have decided to use the landslide motion simulated by LS-RAPID as the trigger of tsunami. The tsunami simulation model used in this study is a well-established and widely used model (IOC 1997). We assumed that horizontal forces between landslide mass and water can be neglected, and tsunami is triggered only by upheaved water mass on the submarine ground due to a moving landslide mass. This assumption is the same with Baba et al. (2012), Abe et al. (2008), and Satake (2001). The tsunami simulation code using the landslide motion data from LS-RAPID was developed (LS-Tsunami) for this study.

The objective of this paper is to define the precision of the series of landslide-induced tsunami models (LS-RAPID + LS-Tsunami). The 1792 Unzen-Mayuyama landslide-and-tsunami disaster was selected as the test case to examine the precision. Both the initial landslide, the landslide displacement, and the tsunami disaster were well investigated and documented. This landslide (volume $3.4 \times 10^8 \text{ m}^3$; maximum depth 400 m) killed 10,139 persons directly by the displaced landslide mass and also by the triggered tsunami wave in the Shimabara Peninsula. The landslide-induced tsunami crossed the Ariake Sea and killed 4653 people in Kumamoto Prefecture on the opposite bank, 343 people on Amakusa Island, and 18 people in other areas (Usami 1996). Sassa et al. investigated the Unzen Mayuyama landslide by measuring the appropriate dynamic parameters for two samples taken from the site using a newly developed high-stress undrained ring-shear apparatus (up to 3 MPa in normal stress and pore pressure). The LS-RAPID simulation using these parameters successfully reproduced the motion of the 1792 Unzen-Mayuyama megaslide in Japan (Sassa et al. 2014a, 2014b). Those measured landslide dynamics parameters are used in this study.

Basic principle of the landslide-induced tsunami model

The basic principle of the landslide-induced tsunami model used in this study is illustrated in Fig. 1. The left part of Fig. 1 is the same as the principle of the integrated landslide simulation model (LS-RAPID) of Sassa et al. (2010). The only difference here is that the landslide mass is located beneath a water surface. The right part of Fig. 1 illustrates the

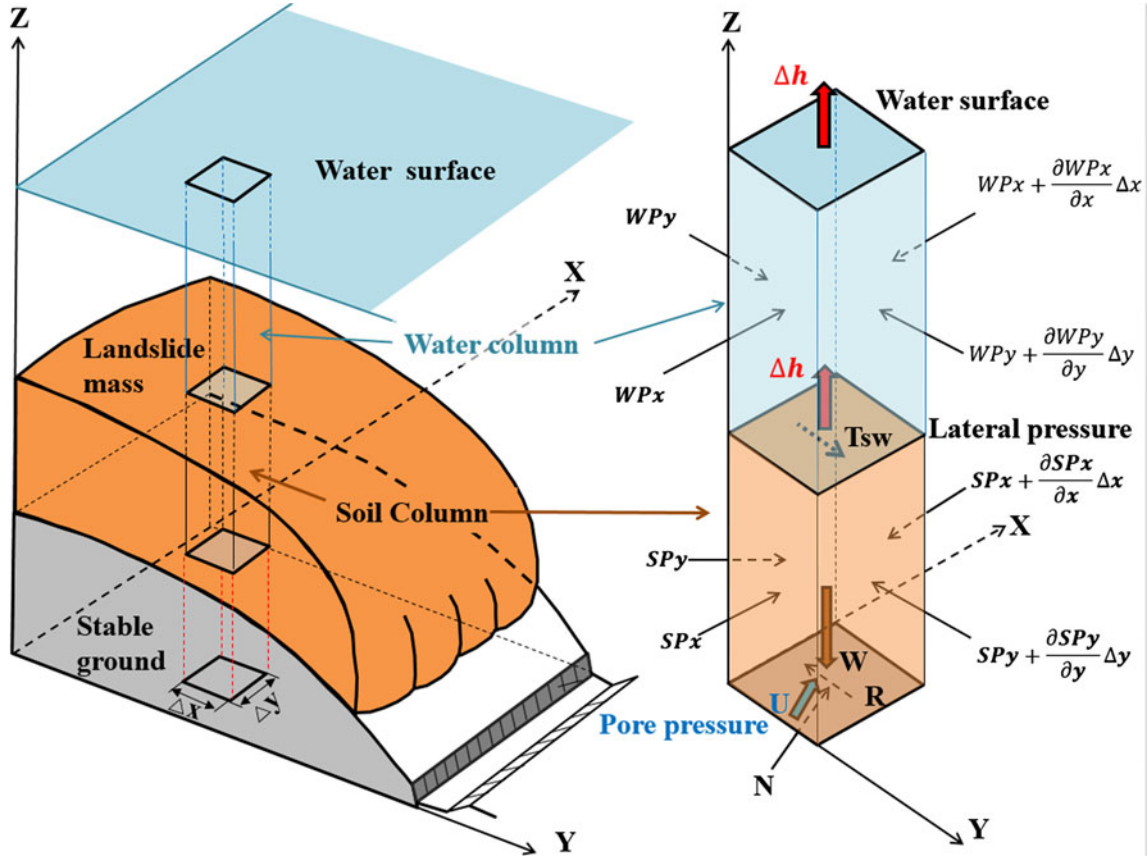


Fig. 1 Basic principle of the landslide-induced tsunami simulation model

elevated water mass (which causes a tsunami wave) by the upward displacement of the interface between the landslide and the water due to the movement of the landslide mass over the sea floor.

When the landslide mass enters or travels across the sea floor, the elevation of the submarine ground surface (which is the interface of landslide mass and submarine water) will be increased. The submarine ground surface elevated by the landslide mass will raise the water mass above the landslide-water interface by an amount, Δh , in a unit time, Δt . The shear resistance (τ_{sw}) between soil and water at this interface should be much smaller than the shear resistance within the soil. Hence, this resistance, τ_{sw} , was ignored in the simulation. The effective stress acting on the surface between the bottom of the soil column and the top of the sea floor was regarded as being unaffected by the increase in water height for the following two reasons: (1) The surficial deposit on the sea floor is unconsolidated and hence is expected to be permeable enough to transmit the water-pressure change due to water height change to the bottom of the soil column above the sea floor; and (2) the soil column of the moving mass is both unconsolidated and water saturated, and hence the transmission of water-pressure change from the top of soil column to the bottom of the soil column is fast (elastic wave velocity of water is around 1.5 km/s) and can be regarded as instantaneous.

When a landslide mass enters into water, the buoyant force by water will act on the soil mass. Namely, the unit weight of soil mass

(γ_t) on land will change to the buoyant unit weight of soil mass, the difference between γ_t and γ_w (unit weight of seawater) under water. In the case of partial submersion, the buoyant force by water will act only on the part of soil mass below the water surface. No tangential force between soil and water is considered because the tangential force by water will be negligible compared to the shear resistance mobilized in the shear surface of large-scale landslides.

There are many parameters to regulate landslide motion on land (Sassa et al. 2010, 2014a, b) and submarine landslide motion (Sassa et al. 2012). The values of such landslide dynamics parameters were mostly measured by the undrained ring shear testing on the samples taken from the landslide source area and its moving area. The parameters used in tsunami simulation (LS-Tsunami) are the unit weight of seawater and Manning's roughness coefficient for basal resistance between water and ground.

Two sets of equations to simulate landslide motion and tsunami motion

The calculation part of the landslide-induced tsunami model contains the following two steps.

The first step: simulation of landslide mass by the integrated landslide simulation model "LS-RAPID" on land and on the sea floor. The equations of the first step are

Eqs. 1–4, which are the same as in LS-RAPID (Sassa et al. 2010).

The second step: simulation of the tsunami by LS-Tsunami. The equations of the second step are Eqs. 5–8, which is an established tsunami simulation model (IOC 1997).

The concept of LS-RAPID is that the acceleration (a) of the soil mass (m_s) is induced by the sum of forces of the self-weight of soil mass, the seismic force acting on the soil column, the shear force acting on the bottom of soil column, and lateral pressure acting on the sides of the soil column (Eq. 1).

The concept of the landslide-induced tsunami simulation (LS-Tsunami) is that the acceleration (a) of the water mass (m_w) is induced by the sum of forces of the lateral pressure acting on the sides of the water column and the Manning's basal shear resistance due to roughness of the ground (Eq. 5). Both sets of equations are shown from Eqs. 1 to 8 below.

Basic equations for motion of landslide (LS-RAPID)

$$am_s = (W + F_v + F_x + F_y) + \left(\frac{\partial P_x}{\partial x} \Delta x + \frac{\partial P_y}{\partial y} \Delta y \right) + R \quad (1)$$

where

a	Acceleration of a soil column
m_s	Landslide mass in a column
W	Self-weight of column
F_v, F_x, F_y	Three components of seismic forces
$\frac{\partial P_x}{\partial x} \Delta x, \frac{\partial P_y}{\partial y} \Delta y$	Lateral pressure acting on the side walls of the column in the x and y directions
R	Shear resistance acting on the base of the column

Expressing Eq. 1 in x and y directions, Eqs. 2 and 3 are obtained. Assuming the total mass of landslide does not change during motion, Eq. 4 is obtained.

$$\frac{\partial M}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x}(u_o M) + \frac{\partial}{\partial y}(v_o M) = gh \left\{ \frac{\tan \alpha}{q+1} (1 + Kv) + Kx \cos^2 \alpha \right\} - (1 + Kv) kgh \frac{\partial h}{\partial x} - \frac{g}{(q+1)^{1/2}} \cdot \frac{u_o}{(u_o^2 + v_o^2 + w_o^2)^{1/2}} \{ h_c(q+1) + (1-r_u)h \tan \phi_a \} \quad (2)$$

$$\frac{\partial N}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x}(u_o N) + \frac{\partial}{\partial y}(v_o N) = gh \left\{ \frac{\tan \beta}{q+1} (1 + Kv) + Ky \cos^2 \beta \right\} - (1 + Kv) kgh \frac{\partial h}{\partial y} - \frac{g}{(q+1)^{1/2}} \cdot \frac{v_o}{(u_o^2 + v_o^2 + w_o^2)^{1/2}} \{ h_c(q+1) + (1-r_u)h \tan \phi_a \} \quad (3)$$

$$\frac{\partial h}{\partial t} + \frac{\partial M}{\partial x} + \frac{\partial N}{\partial y} = 0 \quad (4)$$

where

h	Height of soil column within a meshp
u_o, v_o	Velocity of a soil column to X and Y directions, respectively (velocity distribution in Z direction is neglected and assumed to be a constant)
M, N	Discharge of soil per unit width in X and Y directions respectively ($M = u_o h, N = v_o h$)
g	Acceleration due to gravity
α, β	Angles of the ground surface to X - Z plain and Y - Z plain, respectively

k	Lateral pressure ratio (ratio of lateral pressure and vertical pressure)
$\tan \phi_a$	Apparent friction coefficient mobilized at the sliding surface of landslide
h_c	Cohesion c expressed in the unit of height ($c = \rho g h_c$, ρ : density of soil)
r_u	Pore pressure ratio (u/σ)
Kv, Kx, Ky	Seismic coefficients to the vertical, x and y directions

$$q = \tan^2 \alpha + \tan^2 \beta$$

$$w_o = -(u_o \tan \alpha + v_o \tan \beta)$$

Basic Equations for Motion of Water (LS-Tsunami)

$$am_w = \frac{\partial P_x}{\partial x} \Delta x + \frac{\partial P_y}{\partial y} \Delta y + R(\text{Manning}) \quad (5)$$

where

a	Acceleration of a water column
m_w	Water mass in a column
$R(\text{Manning})$	Manning's basal resistance between water and ground
$\frac{\partial P_x}{\partial x} \Delta x$, $\frac{\partial P_y}{\partial y} \Delta y$	Lateral pressure acting on the side wall of column in x and y directions

Equation 5 is expressed by Eqs. 6, 7, and 8.

$$\frac{\partial M}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x}(u_o M) + \frac{\partial}{\partial y}(v_o M) = -gh \frac{\partial \eta}{\partial x} - \frac{\tau_x}{\rho} \quad (6)$$

$$\frac{\partial N}{\partial t} + \frac{\partial}{\partial x}(u_o N) + \frac{\partial}{\partial y}(v_o N) = -gh \frac{\partial \eta}{\partial y} - \frac{\tau_y}{\rho} \quad (7)$$

$$\frac{\partial h}{\partial t} + \frac{\partial M}{\partial x} + \frac{\partial N}{\partial y} = 0 \quad (8)$$

where

h	Height of water column within a mesh
η	Elevation of water surface above sea level datum

u_o, v_o	Velocity of a water column in X and Y directions, respectively (velocity distribution in Z direction is neglected and assumed to be a constant)
M, N	Discharge of water per unit width in X and Y directions, respectively ($M = u_o h$, $N = v_o h$)
g	Acceleration due to gravity

Manning's basal resistance $R(\text{Manning})$ is expressed as below:

$$\begin{aligned} \text{X-component : } \frac{\tau_x}{\rho} &= \frac{gn^2}{h^{7/3}} M \sqrt{M^2 + N^2} & \text{Y-component : } \frac{\tau_y}{\rho} \\ &= \frac{gn^2}{h^{7/3}} N \sqrt{M^2 + N^2} \end{aligned}$$

ρ	Density of seawater
n	Manning's roughness coefficient

Visual presentation of the simulation results by LS-RAPID and LS-Tsunami

- (7) Figure 2 shows the three steps of the series of landslide-induced tsunami simulation. The first step is landslide motion simulation by LS-RAPID. The second step is the tsunami simulation by LS-Tsunami using the calculated landslide motion data. The third step is visual presentation stage without calculation. The landslide and tsunami motions are visually presented without calculation by a viewing code "LS-Motion" with different speed (time span of each image), color, balls/contours/three-dimensional view/two-dimensional view, photos, and video. The visual presentation of landslide hazard assessment and tsunami hazard assessment is important for risk management.

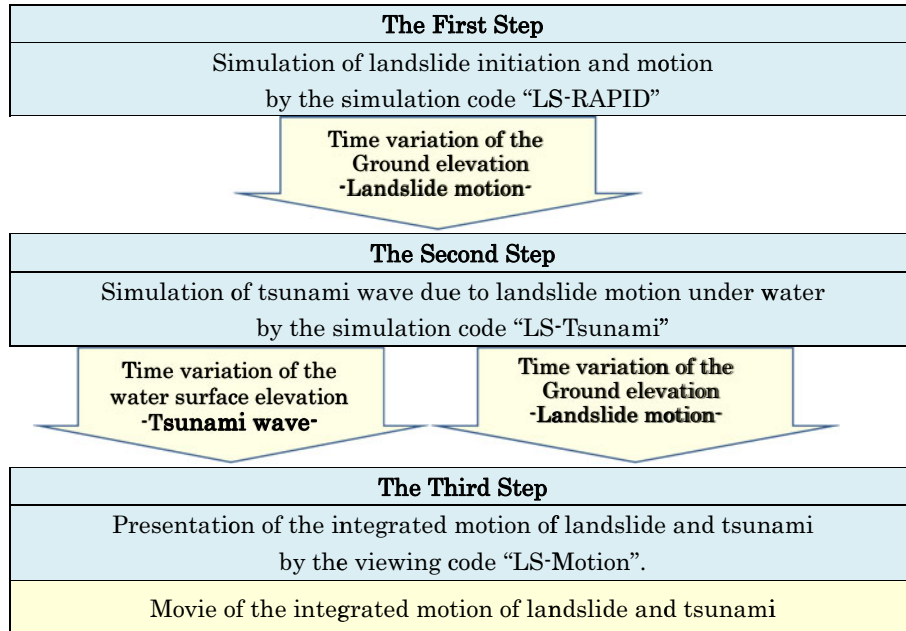


Fig. 2 Three steps of the landslide-induced-tsunami simulation

Application of the model to two hypothetical simple coastal landslides

The new landslide-induced tsunami simulation was initially applied to two hypothetical landslides (A and B) on an imaginary slope.

- Case A: maximum depth = 100 m, maximum length = 500 m, maximum width = 300 m, and volume = $5.8 \times 10^6 \text{ m}^3$
- Case B: maximum depth = 313 m, maximum length = 1230 m, maximum width = 1000 m, and volume = $170 \times 10^6 \text{ m}^3$

The top of the slope was flat, the slope angle was 35° , and the bottom of the slope was a flat sea bed. The peak friction angle (ϕ_p) was 42° , and the friction angle during motion (ϕ_m) was 40° . The heads of both landslides are at the top of the slope, and the toes of both landslides are at the water surface. The distance between the left end and the coast is 2000 m, and the distance from the coast to the bottom of the figure is 100,000 m in Figs. 3 and 4. Definitions of the maximum landslide velocity and the maximum tsunami height in Tables 1 and 2 are as follows.

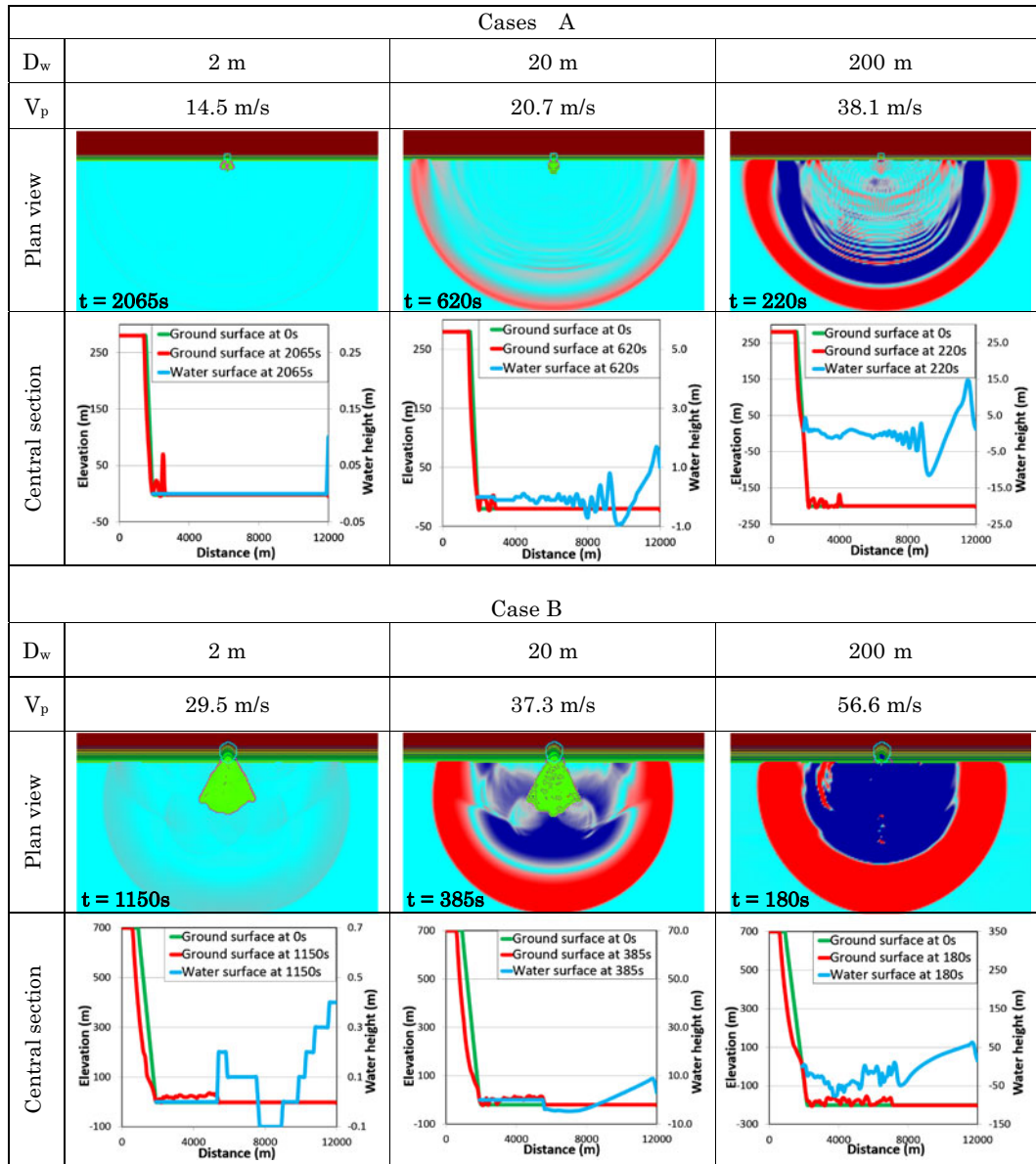


Fig. 3 Tsunami and landslide profiles when the tsunami front reached at 12,000 m. The steady state shear strength is constant ($\tau_{ss} = 80 \text{ kPa}$). Water depths are different from 2 to 200 m. D_w depth of water in the sea/lake, V_p maximum landslide velocity when the landslide front reached the flat sea/lake floor. The *bright red color* presents the wave more than 3 m above sea level, and the *dark blue color* presents the wave less than 3 m below sea level

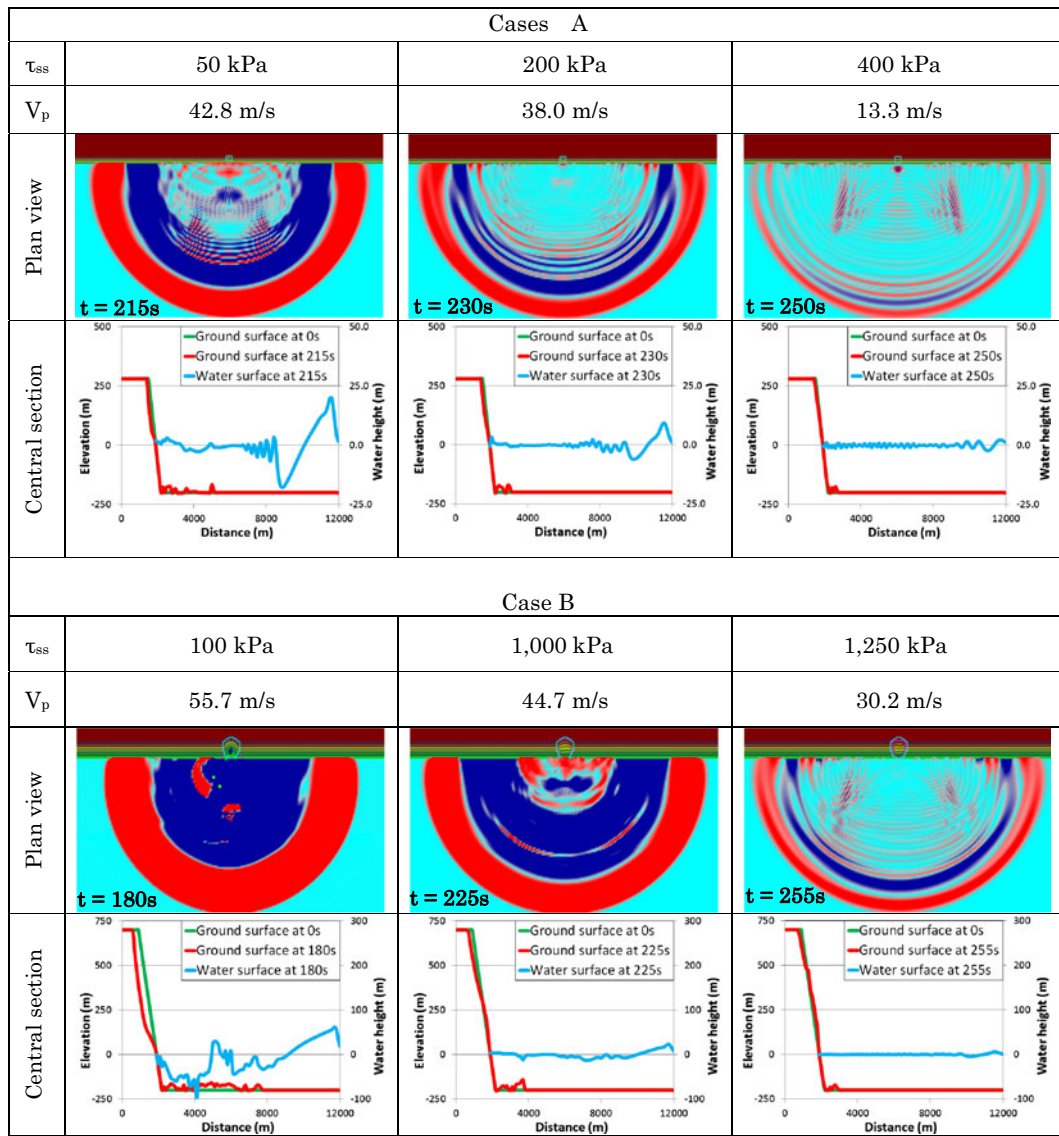


Fig. 4 Tsunami and landslide profiles when the tsunami front reached at 12,000 m. The water depth is constant (200 m). The steady state shear strengths are from 50 to 1,250 kPa. τ_{ss} steady state shear resistance of the landslide, V_p maximum landslide velocity when the landslide front reached the flat sea/lake floor. The *bright red color* presents the wave more than 3 m above sea level, and the *dark blue color* presents the wave less than 3 m below sea level

- The maximum landslide velocity is the maximum velocity within the landslide mass when the front of the landslide mass reaches the flat sea/lake floor. Landslide velocity is one of indexes of triggering of tsunami as well as the landslide depth and the water depth.
- The maximum tsunami height is the maximum height in the tsunami profile (in Figs. 3 and 4) when the front of tsunami reaches 10 km from the coast. It is an index of tsunami effect over a sea/lake.

Table 1 Relation between water depth and tsunami behavior (steady state shear resistance = 80 kPa)

Landslide volume(m ³)	Depth of water (m)	Maximum landslide velocity (m/s)	Tsunami traveling time (s) to 10 km from the coast	Maximum tsunami height (m) in Fig. 3
A: 5.8×10^6	2	14.5	2,065	0.1
	20	20.7	620	1.7
	200	38.1	220	14.7
B: 170×10^6	2	29.5	1,150	0.4
	20	37.3	385	8.7
	200	56.6	180	62.0

Table 2 Relation between the steady state shear resistance and tsunami behavior (depth of water is 200 m)

Landslide volume (m ³)	Steady state shear resistance (kPa)	Maximum landslide velocity (m/s)	Tsunami traveling time (s) to 10 km from the coast	Maximum tsunami height (m) in Fig. 4
A: 5.8×10^6	50	42.8	215	20.0
	200	38.0	230	9.2
	400	13.3	250	2.2
B: 170×10^6	100	55.7	180	62.0
	1,000	44.7	225	23.4
	1,250	30.2	255	5.9

The motion of tsunami is calculated at each 0.05 s, but the profiles in Figs. 3 and 4 and 2-D views in Fig. 8 are outputted and saved as the figures at each 5 s.

Figure 3 and Table 1 show the relation between the water depth and the tsunami behavior at a constant steady state shear resistance (80 kPa) and different water depths (2, 20, 200 m). The maximum tsunami heights are from 0.1 to 62.0 m. It increased with the depth of water and the landslide volume. As the depth of water increases, the maximum landslide velocity increases because the longer acceleration will increase landslide velocity on the longer steep slope below sea level. The larger volume of water in the deeper water depth is upheaved by the moving landslide mass and causes the greater tsunami height.

Figure 4 and Table 2 show the relation between the steady state shear strength and the tsunami behavior at a constant water depth (200 m), and different steady state shear resistance. As the steady state shear resistance increases, the maximum velocity decreases and also the maximum tsunami height decreases. The relationships between the maximum tsunami height and the tsunami traveling time are inversely proportional in Table 1. However, the effect of steady state shear resistance and the maximum landslide velocity on the tsunami traveling time is limited at the same water depth (Table 2)

Application of the model to the Unzen-Mayuyama landslide and its resulting tsunami wave

The 1792 Unzen-Mayuyama landslide and its analysis

The series of landslide-induced tsunami simulation LS-RAPID + LS-Tsunami + LS-Motion was applied to the 1792 Unzen-Mayuyama landslide-and-tsunami disaster. Figure 5 presents a Google view of the landslide. The displaced landslide mass created many islands in the Ariake Sea. Most of them disappeared by sea erosion after the event. But, some landslide mounds still exist as islands. Figure 6 presents the section of this landslide (Sassa et al. 2014a, 2014b, modified from the Unzen Restoration Office of the Ministry of Land, Infrastructure, and Transport (MLIT) of Japan, 2002 and 2003). The Unzen-Mayuyama mountain consists of volcanic lava rock and unconsolidated eruption products (sand and debris). Two samples (S1 and S2) were taken from the site for testing to obtain the landslide dynamic parameters by the undrained dynamic-loading ring-shear apparatus (Sassa et al. 2014a, 2014b). The sliding surface of the landslide should be formed within a sandy layer rather than in a layer consisting of strong intact lava rocks and boulders. Hence, sample S1 was taken from a sandy layer exposed along a torrent gully in the source area of the landslide. The original soil layer (a

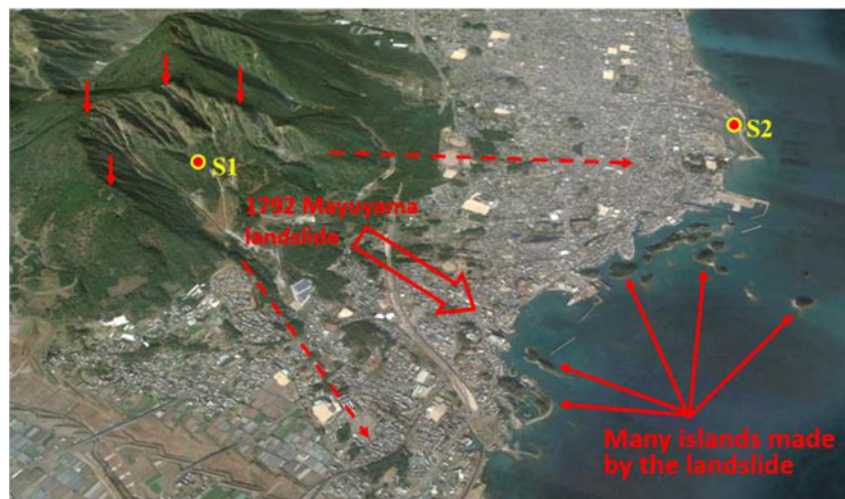


Fig. 5 The 1792 Unzen-Mayuyama landslide. The overview of the landslide. The headscarp is indicated by vertical red arrows, and the direction of the landslide motion is shown by a thick red arrow in the center and two dotted lines in the sides

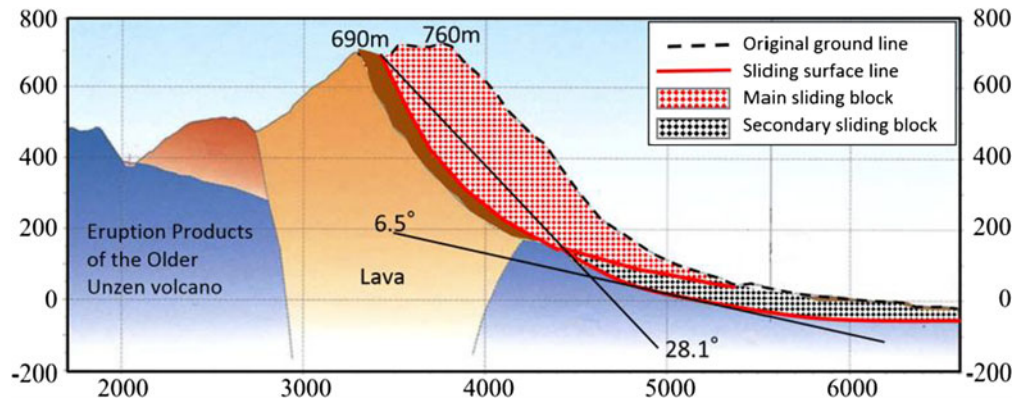


Fig. 6 Section of the 1792 Unzen-Mayuyama landslide and its interpretation. The section of the initial main landslide block is shown by a red dotted mass, and the secondary sliding block pushed forward by the motion of the initial landslide mass is shown by a black dotted soil layer. The original ground surface before the landslide and the sliding surface was estimated by Inoue (1999) and the MLIT Unzen Restoration Office (2002). The main sliding block and the secondary sliding block were interpreted by Sassa et al. (2014a, b). The lines of slope angle of 6.5° and the 28.1° were drawn for the undrained dynamic-loading ring shear test to physically simulate the initiation of the landslide (red dotted area) and the movement of the secondary sliding block (black dotted area) due to the undrained loading from the displaced initial landslide mass

black dotted soil layer in Fig. 6) was displaced or covered by the moved landslide mass, and the original soil layer could not be found at the site. Hence, a sample S2 representing this soil layer was taken from the coastal area outside of the landslide moving area.

The necessary landslide dynamics parameters were measured and estimated by a series of undrained ring shear tests, drained speed-control test, undrained monotonic shear-stress loading test, pore pressure control test to simulate landslide initiation by pore pressure increasing, undrained cyclic-loading test, and undrained pore pressure and seismic-loading test simulating the earthquake-induced landslide in the Mayuyama landslide (Sassa et al. 2014a, 2014b).

The landslide is known to have been triggered by a nearby earthquake (of estimated magnitude, $M=6.4 \pm 0.2$, Usami 1996). The amount of damage to houses caused by the earthquake suggests that the seismic acceleration was 400 cm/s^2 or greater (Unzen Restoration Office 2002, 2003). There is no seismic wave record from this earthquake which predates recording seismometers. So, we used a recent seismic record (MYG004 that of the 2008 Iwate Miyagi-earthquake, $M=7.2$, which triggered the 67 million m^3 Aratozawa landslide, maximum acceleration was 739 cm/s^2 (Sassa et al. 2014) for the seismic shear stress loading in the undrained ring shear test. The test result showed that the necessary maximum acceleration to initiate this landslide was 216 cm/s^2 . It means that the smaller earthquake can produce this landslide. Then, 0.7 times and 0.5 times of the acceleration of MYG004 (507 and 370 cm/s^2) were input to LS-RAPID. Both cases gave the very similar result of landslide motion. We used 0.5 times of MYG004 (maximum acceleration of 370 cm/s^2) that was given as the triggering factor to LS-RAPID. The landslide dynamics parameters used in this simulation are shown in Table 3.

Simulation of the Unzen-Mayuyama landslide by LS-RAPID

The simulation area for the landslide-induced tsunami including the Ariake Sea and Kumamoto Prefecture on the opposite bank is $59 \times 37.4 \text{ km}$. It is much wider than the simulation area for the Mayuyama landslide ($12 \times 8 \text{ km}$). Due to the computer capacity and the time for one simulation, the mesh size was increased from 50 m (used in the previous study of 2014, Sassa et al. 2014a, b) to

100 m in this landslide-induced tsunami study. The results from the landslide simulation are shown in Fig. 7.

LS-RAPID has two presentation modes showing the moving landslide mass. One mode is color balls with different sizes and different color intensities for the landslide depth which was used for the Leyte landslide simulation in Fig. 12 of Sassa et al. (2010). This makes it easier to visualize the landslide motion. However, it does not show the real ground surface of the landslide during motion. Another mode is either a three-dimensional or a two-dimensional view of the moving landslide. The three-dimensional view is suitable to visually show the motion. However, the two-dimensional view is good for the precise location as a map. Four figures of Fig. 7 show a two-dimensional view of the landslide motion from the initiation to the termination. The initial landslide mass before motion is delineated by a blue line, and the moving landslide mass is delineated by a red line. The figure shows that the landslide mass moved into the Ariake Sea, and tops of moving landslide masses appeared above the sea and stopped its motion partly filling the Shimabara port. After the 1792 Unzen-Mayuyama landslide event, coastal erosion changed the topography of this port because most of displaced landslide masses were weak to coastal erosion. But, some strong parts are still left as islands in the sea as seen in Fig. 5.

Simulation of the landslide-induced tsunami by LS-Tsunami

The landslide motion was firstly calculated by LS-RAPID as Fig. 7. The data set of calculated landslide motion at each 0.1 s was saved and used as input to LS-Tsunami as the tsunami trigger. Additional parameters input in the LS-Tsunami are the unit weight of seawater and the Manning's roughness coefficient for basal resistance in the sea. The Manning's roughness coefficient is not a testing value but an empirical value used for analysis of water movement such as tsunamis and floods. Tsunami motion generated by the landslide motion was calculated by LS-Tsunami. The result of simulated tsunami height at each mesh and at each 0.05 s was saved. These data sets were then used as input to LS-Motion. The tsunami simulation is shown in whatever preferred mode, color, and speed by LS-Motion. Figure 8 is an example from LS-Motion. The explanation/interpretation of the behavior of landslide and tsunami at each figure of Fig. 8 is directly written in the caption.

Table 3 Parameters used in computer simulation of Unzen-Mayuyama landslide-and-tsunami disaster

Parameters used in simulation	Value	Source
Parameters of soils in the source area (deeper area)		
Steady state shear resistance (τ_{ss})	120 kPa	Test data
Lateral pressure ratio ($k = \sigma_h / \sigma_v$)	0.7–0.8	Estimation (see text)
Friction angle at peak (ϕ_p)	42.0°	Test data
Cohesion at peak (c)	10 kPa	Assuming small
Friction angle during motion (ϕ_m)	40.0°	Test data
Shear displacement at the start of strength reduction (D_L)	6 mm	Test data
Shear displacement at the start of steady state (D_U)	90 mm	Test data
Pore pressure generation rate (B_{ss})	0.7–0.9	Estimated
Total unit weight of the mass (γ_t)	19.5 kN/m ³	From the test
Unit weight of seawater (γ_w)	10.1 kN/m ³	Average seawater density (1.026 kg/m ³)
Parameters of soils in the moving area (shallower area)		
Steady state shear resistance (τ_{ss})	30–80 kPa	Test data
Lateral pressure ratio ($k = \sigma_h / \sigma_v$)	0.8–0.9	Estimated
Friction angle at peak (ϕ_p)	40.0°	Test data
Cohesion at peak (c)	10 kPa	Assuming small
Friction angle during motion (ϕ_m)	40.0°	Test data
Shear displacement at the start of strength reduction (D_L)	6 mm	Test data
Shear displacement at the end of strength reduction (D_U)	90 mm	Test data
Pore pressure generation rate (B_{ss})	0.7–0.9	Estimated
Total unit weight of the mass (γ_t)	19.5 kN/m ³	From the test
Triggering factor		
Excess pore pressure ratio in the fractured zone (r_u)	0.21	Assumption
0.5 times of the 2008 Iwate-Miyagi earthquake	Max 370 cm/sec ²	Wave form of the Ground motion record at MYG004
Parameters of the function for non-frictional energy consumption		
Coefficient for non-frictional energy consumption	1.0	See Sassa et al. 2010
Threshold value of velocity	100 m/s	A few times greater than maximum reported speed
Threshold value of soil height	400 m	Maximum depth of the initial source area
Other factors		
Steady state shear resistance under sea	10 KPa	Data (Sassa et al. 2004)
Unit weight of seawater	10.1 kN/m ³	Average seawater density
Manning's roughness coefficient	0.025	Under water and vacant lots (MLIT Guideline 2012)

The tsunami disaster investigated by the Unzen Restoration office (2002, 2003) is shown in Fig. 9. The residents in the community erected the Tsunami-Dome-Ishi (tsunami stopping stones) at the highest points where the tsunami reached. Tsunami-Dome-Ishi are found in

Kyodomari, in Umedo, and in Ohtao along the coast of Kumamoto Prefecture, which were carefully investigated by Tsuji and Hino (1993). People in the Shimabara Peninsula built stone pillars in memory of the tsunami disasters. Tsuji and Murakami (1997) investigated Tsunami

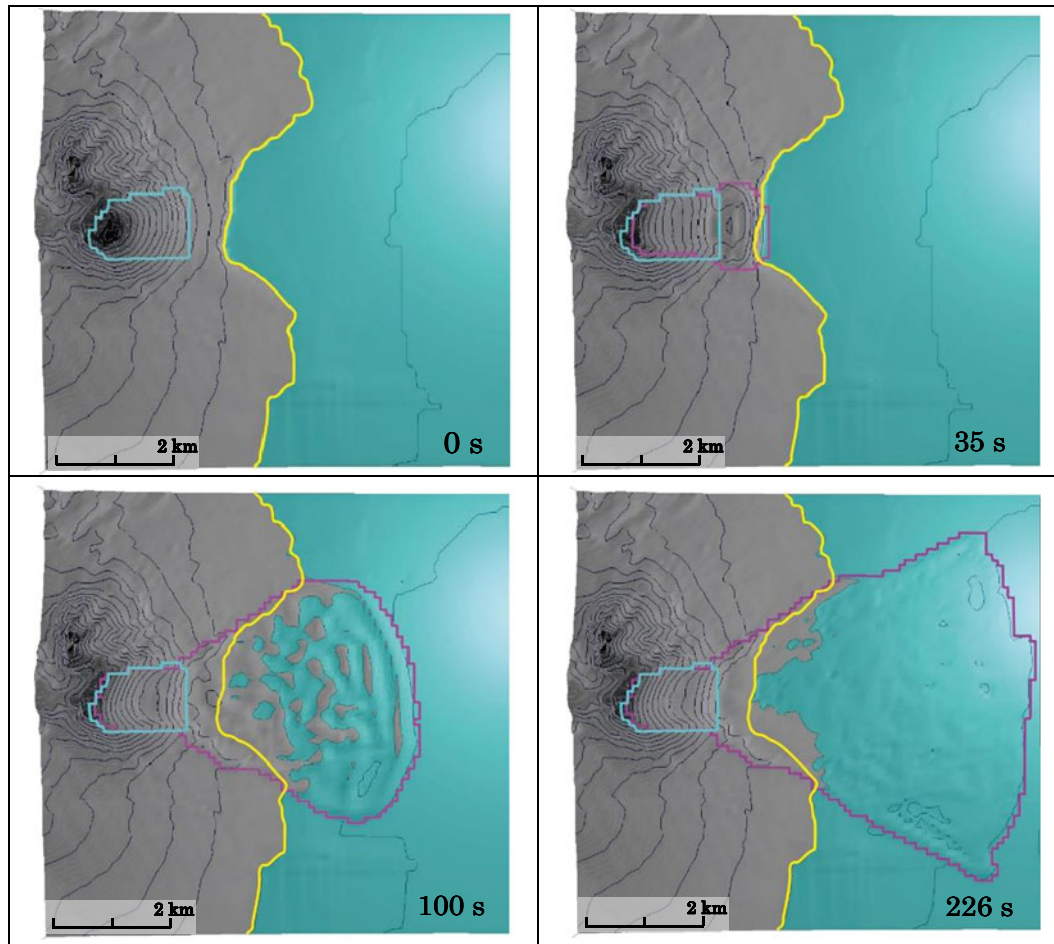


Fig. 7 Landslide motion simulated by the landslide simulation code “LS-RAPID.” The yellow color line is the coastal line before the landslides. The red line is the border of displaced landslide mass. The left-top figure ($t=0$ s) presents the location of the initial landslide mass, and the right-top figure ($t=35$ s) presents the instant when the landslide moving mass reached the coast. The left-bottom figure ($t=100$ s) shows the moving landslide mass in the Ariake Sea. Parts of moving landslide blocks (gray color parts) are found above the sea. The right-bottom figure ($t=226$ s) presents the state when the landslide motion was terminated

heights in the Shimabara Peninsula. Figure 9 is made using those investigation, the historical data, and stone pillars.

The original file of Fig. 9 is a Japanese-printed figure. It cannot be changed. English explanation is written in the Fig. 9 caption by adding A-I within Fig. 9. Shimabara-Taihen, Higo-Meiwaku in A is a lesson from this historically largest landslide and volcanic disaster. We should not neglect disasters in the opposite bank. Adverse effects may reach the opposite bank.

Five sites (three sites from the Kumamoto coast and two sites from Shimabara coast) with clearer evidences were selected to compare the results simulated by the LS-Tsunami based on LS-RAPID to the tsunami heights by historical records in both coasts. The maximum tsunami heights at each 0.05 s for each mesh were plotted on the map, and the contour map was made to visualize the tsunami wave (Fig. 10). Locations of these five sites are shown in this figure. The simulated tsunami wave reached more than 5 km inland on the Kumamoto coast.

Comparison was conducted between the following:

1. Tsunami heights estimated from the simulation (LS-RAPID and LS-Tsunami) based on the values of landslide dynamics parameters measured and estimated by the undrained ring shear testing on the samples taken from the site.

2. Tsunami heights reported by the Unzen Restoration office (2002, 2003) based on the records including Tsuji and Hino (1993) and Tsuji and Murakami (1997) in the Shimabara and Kumamoto areas. Tsunami heights in the sea were not recorded. But, the landslide depth under the sea was investigated and reported by the office.

Manning's roughness coefficient

The simulated tsunami heights are affected by the value of Manning's roughness coefficient. The coefficient was reported to be between 0.010 and 0.060 $\text{m}^{-1/3}.\text{s}$ as empirical values in the cases of water channels with different materials (Linsley and Franzini 1979). The coefficient used for Tsunami simulation was reported between 0.01 and 0.08 $\text{m}^{-1/3}.\text{s}$ by many reports and guidelines such as MLIT 2012, Fraser et al. (2014), Imamura (2009), and Tinti and Tonini (2013). The 0.03–0.08 $\text{m}^{-1/3}.\text{s}$ are used for forests and buildings areas. The most commonly used value of Manning's coefficient for tsunami simulation is 0.025 $\text{m}^{-1/3}.\text{s}$ (MLIT 2012; Tinti and Tonini 2013; Imamura 2009). The purpose of this research is not examination of the value of Manning's roughness coefficient but the examination of

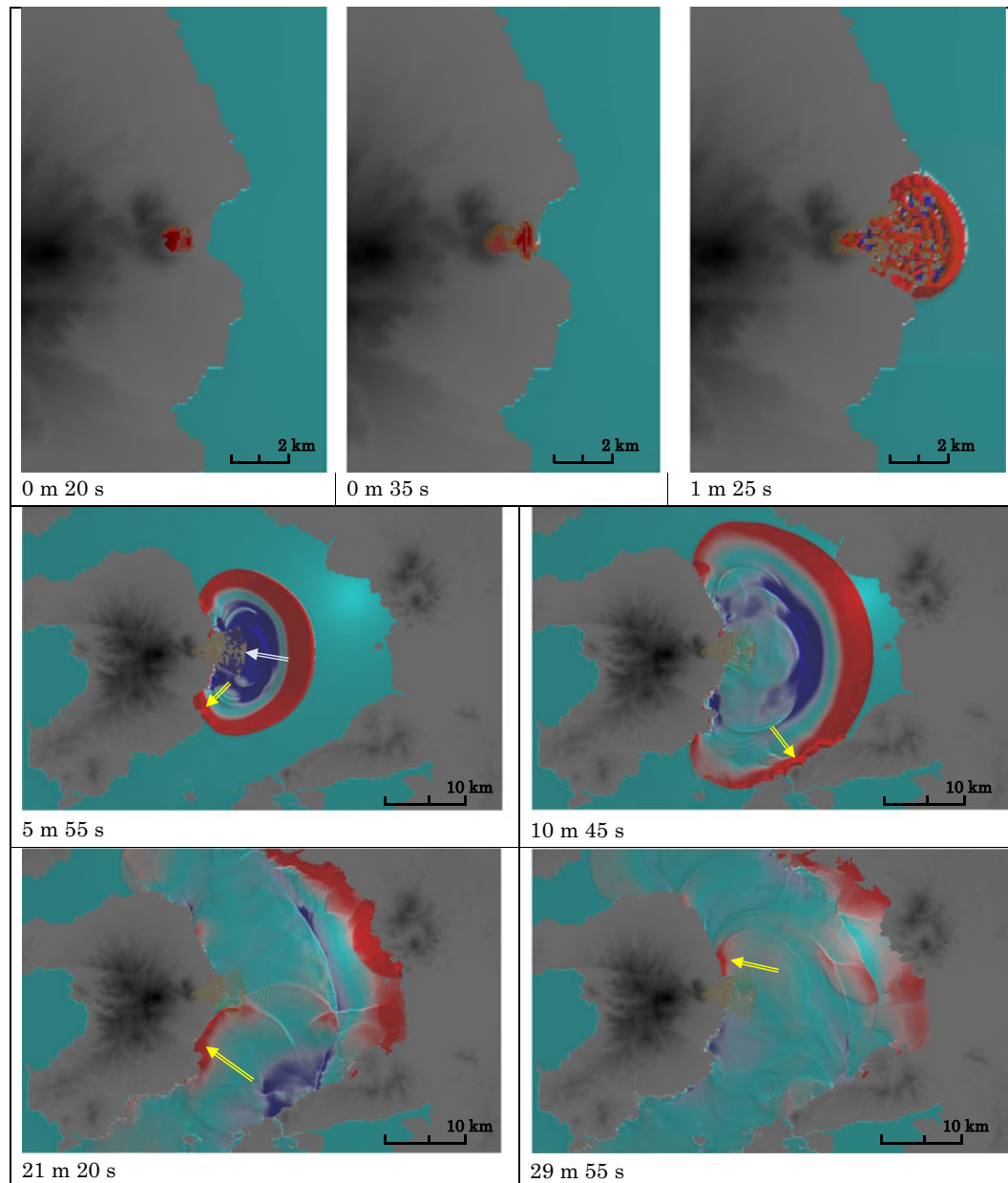


Fig. 8 Simulation result of landslide-induced-tsunami wave using the simulation code “LS-Tsunami” and “LS-Motion.” The *first figure* on the *top* shows when the initial landslide started to move at 0 min 20 s. The *second figure* on the *top* at 35 seconds shows that the landslide mass reached the coastal line. The *third figure* on the *top* at 1 min 25 s shows the landslide mass entering into the sea and triggering the tsunami wave. The *left figure* (5 min 55 s) in the *center* shows the expanding tsunami wave into the Ariake Sea, and the *top parts* of moving landslide blocks (*dark brown color dots*) are seen above sea level as shown by a *white color arrow*. The *yellow color arrow* shows the attack of tsunami wave to Futsu town. The *right figure* in the *center* presents when the tsunami wave reached Kumamoto Prefecture on the opposite bank. The *left figure* (21 min 20 s) on the *bottom* shows that the tsunami wave was returned from the opposite bank to attack the southern part of Shimabara Peninsula (around Futsu town) again as shown in the *yellow arrow*. Around 3,500 persons were killed in the southern part of Shimabara Peninsula by the Tsunami (Fig. 9). The *right figure* on the *bottom* at 29 min 55 s shows another returned wave attacking the northern side of Mayuyama landslide area. In this figure, the *bright red color* presents the wave more than 5 m above sea level and the *dark blue color* presents the wave less than 5 m below sea level

the reliability of the new landslide-induced tsunami simulation. Then, we used the most commonly used value of $0.025 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$ for Figs. 8 and 10 of this paper.

Manning’s basal resistance is caused by the roughness of the ground surface during relative movement of water on the ground. When water depth is greater, the effect of basal resistance for the movement of tsunami will be decreased and the value will be

smaller. The deposits in the deeper sea are usually finer, and then the roughness is decreased. Fraser et al (2014) used $0.013 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$ for ocean and rivers. Ariake Sea which is the major part of Tsunami propagation in this area is 10–50 m deep. It is deeper than pond, river, and shallow sea near coast. Therefore, we examined the case of 0.02 and $0.015 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$ in addition to $0.025 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$ in Table 4.

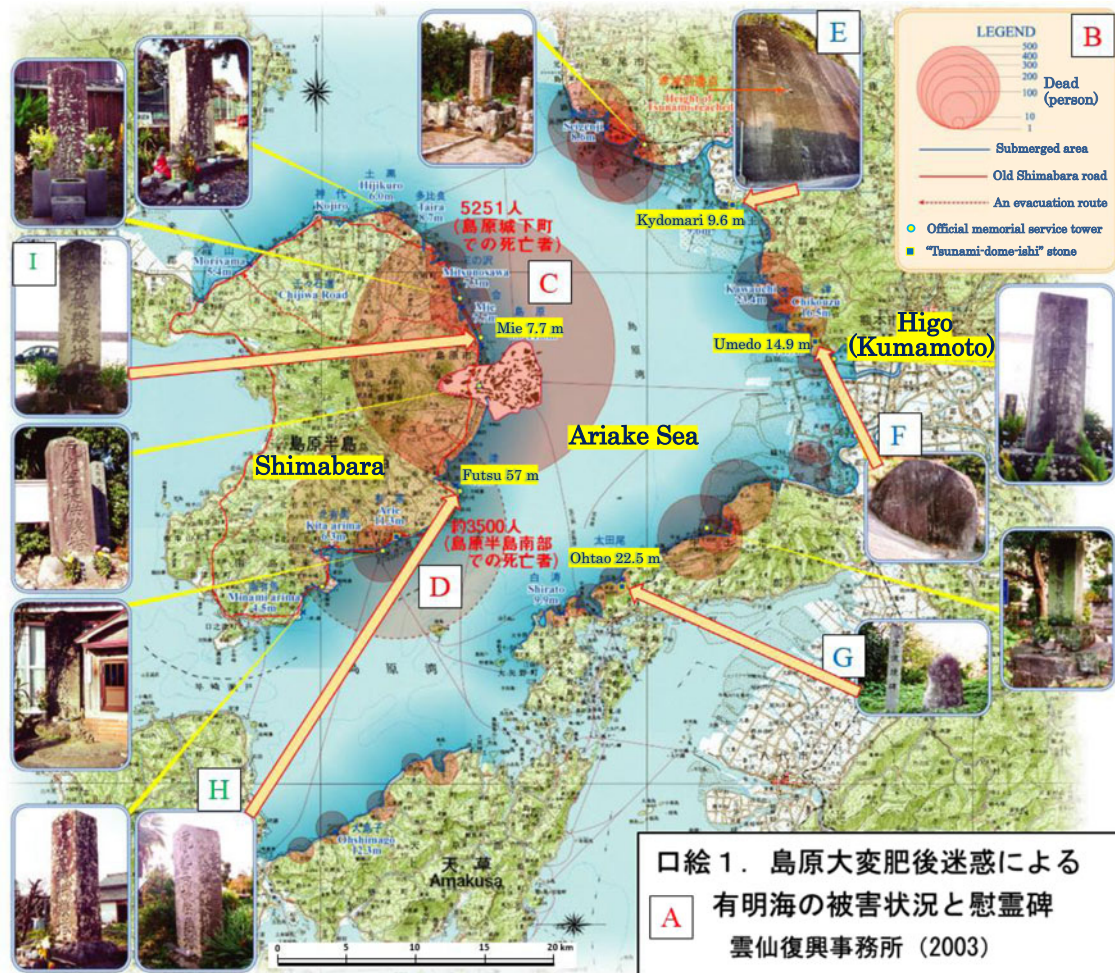


Fig. 9 Records of disaster by the Unzen landslide-and-tsunami disaster (by Unzen Restoration Office 2003). Total number of death is 15,153 persons. The size of circles is proportional to the number of human fatalities in the area. The legend for the number of deaths is shown in the right-top corner. (A) Disasters around Ariake sea and monuments by the Shimabara-Taihen, Higo-Meiwaku. “Catastrophe” in Shimabara area and “Annoyance” or “adversely affected” in Higo (Kumamoto) region. (B) The numbers of deaths are shown in the circles (the largest is 500 persons). (C) The greatest deaths are Shimabara town around the castle (5,251 persons). (D) The second largest deaths are the southern part of Shimabara Peninsula (around 3,500 persons). (E), (F), (G) Tsunami-Dome-Ishi (a stone showing the tsunami reaching point, was set to record the tsunami by the community in Kyodomari (E), Umedo (F), and Otao (G) of the Higo (Kumamoto) Han area. The tsunami-Dome-Ishi in Kyodomari was moved for the construction of a road, but its former location is marked on the road retaining wall (by the regional education committee). The Tsunami-Dome-Ishi is limited in Higo (Kumamoto) Han area. These tsunami records are reliable. (H), (I) Stone pillars for memorial service for deaths by Tsunami in Futsu (H) and Mie (I) in Shimabara Han area

Comparison of tsunami heights between historical records and simulation results

Table 4 presented the reported and simulated tsunami heights at five sites along the Kumamoto and the Shimabara coasts. Differences between the computer simulation and the historical records for the five specific points are less than 5.7 m for Manning’s coefficient $0.025 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$, 4.6 m for Manning’s coefficient, $0.020 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$, and 5.2 m for Manning’s coefficient $0.015 \text{ m}^{-1/3} \cdot \text{s}$ except the case at Futsu.

Futsu is a special case where the first direct tsunami wave from the source of tsunami hits the cliff of the Futsu terrace and probably amplified due to the gulf-shaped coast line. The tsunami wave flowed up to the Terrace (Tsuiji and Murakami 1997). The tsunami wave attacking Futsu is seen at 5 m 55 s in Fig. 7, and the return wave also attacked Futsu from the different direction at 21 m 20 s in Fig. 8. Many people were killed in this area. The

simulation of LS-Tsunami used 100 m mesh data. It cannot include the effect of local amplification of tsunami height due to the sharp topography in this part of the coast.

LS-Tsunami uses the average elevation for each 100-m mesh. The elevation of Tsunami-Dome-Ishi on the slope is not always close to the average height of calculated mesh. In the case of $15\text{--}20^\circ$ slope, 25-m (one fourth of one mesh) difference in horizontal distance cause 6.7–9.1-m elevation difference. The maximum 5.7-m difference in Table 4 is within the elevation difference on the slope. Considering these conditions, the estimated area of tsunami and the tsunami heights along the coast by LS-Tsunami matches with the historical record (Fig. 10 and Table 4). It can be understood that the result of this trial test on the Unzen-Mayuyama landslide-and-tsunami disaster presented a reasonable extent of reliability and a meaningful extent of precision within the variation of Manning’s coefficient and the resolution of ground

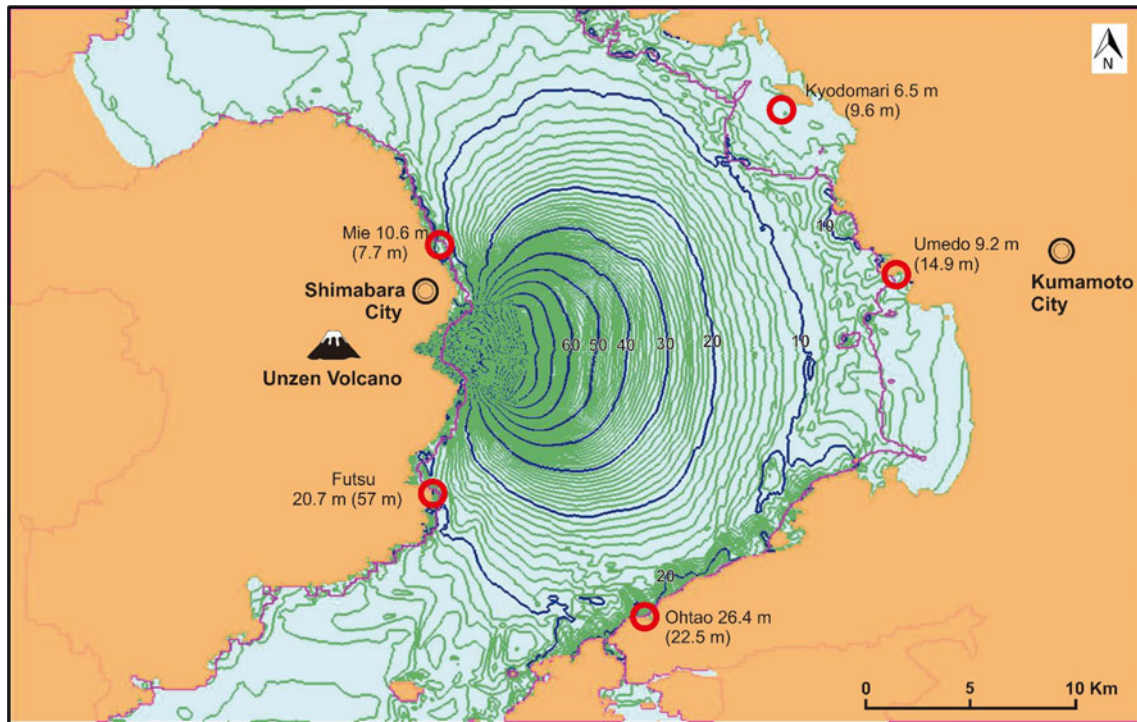


Fig. 10 Contour of the maximum tsunami height at each mesh with the tsunami height records in the Kumamoto side coast and in the Shimabara side coast. The coastline is shown in red where the tsunami wave moved up to the land

elevation. Carefully examining the value difference in different Manning's coefficient, the effect of the coefficient is greater in the long travel distance of tsunami and gives closer tsunami heights in Kyodamari and Umedo.

Comparison of the maximum heights of the landslide and the maximum heights of tsunami along the central section

The upper figure of Fig. 11 presents the maximum landslide moving height and the maximum tsunami height calculated by LS-RAPID and LS-Tsunami at each time step (0.1 s for landslide and 0.05 s for tsunami wave) at each mesh along the central line of landslide. The ground surface before the landslide and the ground surface after the deposition of the landslide were investigated by Inoue 1999 and MLIT 2002 and 2003. The lower figure of Fig. 11 presents the central section of ground surface before and after the landslide. The landslide travel distance estimated by LS-RAPID is

a little longer than the real one. However, the horizontal distance from the headscarp to the landslide toe is around 10,000 m in both cases. The highest landslide mass above the original ground surface near the coast is 127 m at the time resolution of 0.1 s. The highest tsunami height near the coast is 70 m higher than the surface of the moving landslide mass at the time resolution of 0.05 s.

The landslide dynamics research group and the tsunami research group cooperated to develop the landslide-induced tsunami model. Based on the joint research, the tsunami research group earlier developed a soil and water double layer model and applied it to the 1792 Unzen-Mayuyama landslide-induced tsunami (Yanagisawa et al. 2014). The model calculates movement of two layers: a water layer and a soil layer, with simultaneous interaction of the two layers. While the proposed model fully separated the motion of landslide and the motion of tsunami. The landslide

Table 4 Comparison of tsunami heights between the simulation result and the historical record

Location		Tsunami heights from Tsunami-Dome-Ishi and memorial stone pillars	Tsunami heights by LS-Tsunami Manning's coefficient = 0.025 ($m^{-1/3}.s$)	Tsunami heights by LS-Tsunami Manning's coefficient = 0.020 ($m^{-1/3}.s$)	Tsunami heights by LS-Tsunami Manning's coefficient = 0.015 ($m^{-1/3}.s$)
Kumamoto coast	Kyodomari	9.6 m	6.5 m	7.7 m	9.7 m
	Umedo	14.9 m	9.2 m	11.2 m	13.2 m
	Ohtao	22.5 m	26.4 m	27.1 m	27.7 m
Shimabara coast	Futsu	57 m	20.7 m	21.0 m	21.3 m
	Mie	7.7 m	10.6 m	10.9 m	11.0 m

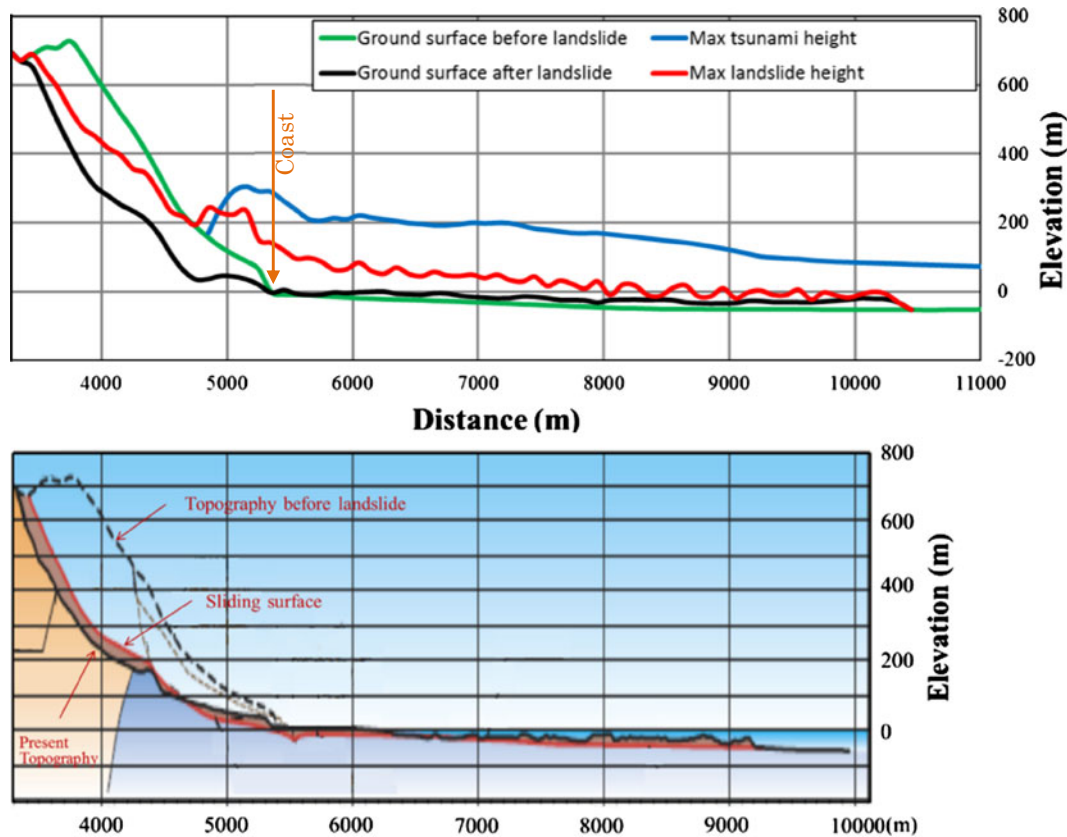


Fig. 11 The simulated maximum heights of tsunami wave and the landslide mass (*top*) and the central section of landslide reported by MLIT (*bottom*)

motion was given to the tsunami simulation as the trigger only. The tsunami simulation model is a well-established and widely used one (IOC 1997). This study could not have been completed without the close cooperation between hydraulics researchers and landslide researchers.

Conclusion

Hazard assessment technology for landslide-induced tsunami is one of the frontiers in Landslide Science. A tsunami wave is induced by the landslide mass entering into and moving under the water. The reliable estimation of landslide motion is the most important as the trigger of the landslide-induced tsunami hazard. The integrated model simulating the initiation and the motion of landslide (LS-RAPID) and the measurement of the landslide dynamics parameters by the undrained dynamic-loading ring-shear apparatus enabled estimation of the landslide motion as the trigger of a tsunami wave. The concept of tsunami simulation (LS-Tsunami) is simple: A water mass is elevated by a landslide mass moving on the sea floor. The increased water height causes a tsunami wave. Possible shear resistance between the landslide mass and water due to viscosity is neglected because it is much smaller than the shear resistance mobilized along the shear surface within soils. The tsunami simulation model is a well-established model (IOC 1997). The parameters used related to water were only the unit weight of seawater and the

Manning's roughness coefficient without other uncertain parameters. This new landslide-induced tsunami model could provide a simulation result well matching the tsunami heights in the Unzen Mayuyama landslide-and-tsunami disaster. This result presented an evidence of reliability and precision of this new landslide-induced tsunami model in this well documented and historically largest landslide-induced tsunami in Japan. Further application to other cases of landslide-induced tsunami can define the reliability and precision of this new model from different aspects.

Acknowledgments

The authors appreciate the cooperation from the Unzen Restoration Office of the Ministry of Land Infrastructure and Transport (MLIT) of Japan and the Unzen Volcanic Area Global Geopark Office, the Unzen Museum, and Prof. Kaoru Takara (Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, Japan) and Dr. Kimio Inoue (Sabo Frontier Foundation, Tokyo, Japan) for their investigation of the Unzen Mayuyama megaslide. We acknowledge Mr. Yuji Sato and the GODAI Development Cooperation, Kanazawa, Japan, for their cooperation in the development of the user-friendly software LS-Tsunami and LS-Motion.

Note: This simulation was conducted by a laptop computer (CPU @1.80 GHz, 2.39 GHz, RAM 8.00 GB) and a desk top computer (CPU 3.50 GHz, 4.00 GHz, RAM 64.0 GB).

References

- Abe I, Goto K, Imamura F, Shimizu K (2008) Numerical simulation of the tsunami generated by the 2007 Noto Hanto Earthquake and implications for unusual tidal surges observed in Toyama Bay. *Earth Planets Space* 60:133–138
- Aoi S, Enescu B, Suzuki W, Asano Y, Obara K, Kunugi T, Shiomi K (2010) Stress transfer in the Tokai subduction zone from the 2009 Suruga Bay earthquake in Japan. *Nat Geosci* 3:496–500
- Ataie-Ashtiani B, Yavari-Ramshe S (2011) Numerical simulation of wave generated by landslide incidents in dam reservoirs. *Landslide* 8(4):417–432
- Baba T, Matsumoto H, Kashiwase K, Hyakudome T, Kaneda Y, Sano M (2012) Microbathymetric evidence for the effect of submarine mass movement on tsunami generation during the 2009 Suruga bay earthquake, Japan. In: Yamada et al. (eds.) *Submarine mass movements and their consequences*. *Advances in Natural and Technological Hazards Research* 31. Springer, pp. 485–494
- Biscarini C (2010) Computational fluid dynamics modelling of landslide generated water waves. *Landslide* 7(2):117–124
- Fraser SA, Power WL, Wang X, Wallace LM, Muelier C, Johnston (2014) Tsunami inundation in Napier, New Zealand, due to local earthquake sources. *Nat Hazards* 70:415–445
- Glimsdal S, L'Heureux JS, Harbitz CB, Pedersen GK (2013) Modelling of the 1888 Landslide Tsunami, Trondheim, Norway. *Proc. the Second World Landslide Forum “Landslide Science and Practice”*, Springer, Vol. 5, pp. 73–79
- Imamura F (2009) Chapter 10. Tsunami modeling: calculating inundation and hazard maps. In: Bernard EN, Robinson AR (eds) *THE SEA Tsunamis*. Harvard University Press, London, pp 321–332
- Inoue K (1999) Shimabara-Shigatsusaku Earthquake and topographic changes by Shimabara catastrophe. *J Jpn Soc Erosion Control Eng* 52(4):45–54 (in Japanese)
- Intergovernmental Oceanographic Commission (IOC) (1997) Numerical method of tsunami simulation with the leap-frog scheme. IUGG/IOC Time Project IOC Manuals and Guides, No.3, UNESCO. 126 p
- Linsley RK, Franzini JB (1979) *Water Resource Engineering*, 3rd edition, McGraw-Hill
- Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT), Water and Disaster Management Bureau, Coastal management office (2012) Guideline for the assessment for Tsunami inundation area. Ver.1.00, http://www.mlit.go.jp/river/shishin_guideline/bousai/saigai/tsunami/shinsui_settei_ver100.pdf
- Sassa K, Fukuoaka H, Wang G, Ishikawa N (2004) Undrained dynamic-loading ring-shear apparatus and its application to landslide dynamics. *Landslide* 1(1):7–19
- Sassa K, Nagai O, Solidum R, Yamazaki Y, Ohta H (2010) An integrated model simulating the initiation and motion of earthquake and rain induced rapid landslides and its application to the 2006 Leyte landslide. *Landslide* 7(3):219–236
- Sassa K, He B, Miyagi T, Strasser M, Konagai K, Ostric M, Setiawan H, Takara K, Nagai O, Yamashiki Y, Tutumi S (2012) A hypothesis of the Senoumi submarine megaslide in Suruga Bay in Japan—based on the undrained dynamic-loading ring shear tests and computer simulation. *Landslide* 9(4):439–455
- Sassa K, Dang K, He B, Takara K, Inoue K, Nagai O (2014a) A new high-stress undrained ring-shear apparatus and its application to the 1792 Unzen–Mayuyama megaslide in Japan. *Landslide* 11(5):827–842
- Sassa K, Bin H, Dang K, Nagai O, Takara K (2014b) Plenary: progress in landslide dynamics. *Landslide science for a safer geoenvironment*, Vol. 1, Springer, 37–67
- Satake K (2001) Tsunami modeling from submarine landslides. *Proceedings of the International Tsunami Symposium*, 665–674
- Tinti S, Tonini R (2013) The UBO-TSUFU tsunami inundation model: validation and application to a tsunami case study focused on the city of Catania, Italy. *NatHazards Earth Syst Sci* 13:1795–1816
- Tsuji Y, Hino T (1993) Damage and Inundation height of the 1792 Shimabara landslide tsunami along the coast of Kumamoto Prefecture. *Bull. Earthquake. Res. Inst., University of Tokyo*, Vol. 68: 91–176 (in Japanese)
- Tsuji Y, Murakami Y (1997) Inundation height of the 1792 Mayuyama landslide tsunami in the Shimabara Peninsula side. *Historical Earthquake*, No.13, Soc. of Historical Earthquake Studies, pp: 135–197
- Unzen Restoration Office of the Ministry of Land, Infrastructure and Transport of Japan (2002) *The Catastrophe in Shimabara—1791–92 eruption of Unzen–Fugendake and the sector collapse of Mayu-Yama*. An English leaflet (23 pages)
- Unzen Restoration Office of the Ministry of Land, Infrastructure and Transport of Japan (2003) *The Catastrophe in Shimabara—1791–92 eruption of Unzen–Fugendake and the sector collapse of Mayu-Yama*. A Japanese leaflet (44 pages)
- Usami T (1996) *Materials for comprehensive list of destructive earthquakes in Japan*. University of Tokyo Press (in Japanese)
- Yanagisawa H, Aoki A, Sassa K, Inoue K (2014) Numerical simulation of 1792 Ariake-Kai Tsunami using Landslide-Tsunami model. *J Jpn Soc Civ Eng Ser B2 (Coast Eng)* 70(2):151–155 (in Japanese)

K. Sassa (✉) · K. Dang

International Consortium on Landslides,
138-1, Tanaka Asukaicho, Sakyo-ku, Kyoto 606-8226, Japan
e-mail: sassa@iclhq.org

K. Dang

VNU University of Science, Vietnam National University,
Hanoi, 334 Nguyen Trai, Thanh Xuan, Hanoi, Vietnam

H. Yanagisawa

Department of Regional Design, Faculty of Liberal Arts,
Tohoku Gakuin University,
2-1-1 Tenjinsawa, Izumi-ku, Sendai, Miyagi 981-3193, Japan

B. He

State Key Laboratory of Lake Science and Environment, Nanjing Institute of Geography and Limnology,
Chinese Academy of Science,
73 East Beijing Road, Nanjing, 210008, People's Republic of China